

SKI Instructor of JAPAN



INSTRUCTOR 第27号

日本スキー指導者協会会報

2011年10月 1日発行

巻頭言



会長 坂本 祐之輔

大震災から半年が経過しました。現在においても先行きの見えない苦しい生活を余儀なくされている多くの方々に、心からお見舞いを申し上げます。現在、被災地住民の方々が主体となって厳しい「まちづくり」が一步一步進みつつありますが、今なお対応が遅い政府・地方自治体の強力な支援を望んでやみません。

私は大地震の当日は全日本スキー連盟スキー技術選手権大会開催の最中で、白馬八方尾根スキー場に滞在していました。この時から全国の各スキー大会も中止となり、ゲレンデのスキーヤーも姿を消し、悲しみのうちに季節が移り変わりました…。

私の今シーズンにおけるスキー活動を振り返ってみると、北関東ブロック研修会・東京スノーワールドインお台場・秋田鹿角国体・B級公認マスターズスキー選手権大会埼玉県予選会・ニセコスキー場での技術トレーニング・スキー技術選手権大会・選手権スノーボード競技大会・イグザミネーターとナショナルデモンストレーター合宿・2011TEAM JAPANトップレーサーズキャンプ・新潟県スキー連盟創立80周年等に参加することができ、組織運営やスキー技術の面からも大いに勉強になりました。

また今年は、日本スポーツ少年団本部長を務める立場で、ドイツスポーツユージュントとの国際交流協定調印式に、日本体育協会を代表し出席しました。フランクフルト市役所の「皇帝の間」において厳かに調印式を終えましたが、その後オーバーストドルフのワールドカップが開催

されたオプターシュワンガ・ホルンスキー場、エアリンガーアリーナジャンプ台を視察することができました。宿泊は隣接地オーストリアのヒュッツエッグ。アルゴイ地方のアルプスが美しい村で、ドイツ人の避暑地として賑わっていました。素晴らしい夏の思い出です。特にドイツスポーツユージュントのインゴ・バイス本部長はスキー場の中腹に別荘を持ち、冬の間はスキーインストラクターの奥様と過ごすとのこと。今度は冬にお伺いすることで話しが盛り上がりました。

季節も夏から秋に移り変わりました。私が所属する街のスキークラブも連盟も、県連や全日本スキー連盟そして日本スキー指導者協会も来るべきシーズンに向けて役員会や総会・評議員会が開催されています。

日本が厳しい社会的経済的環境におかれている中、私たち指導員はスキー活動の指導者としてスキー・スノースポーツの楽しさを少しでも多くの方々に伝えていかなければなりません。

私は常々「桃李もの言わざれど下自ら蹊を成す」（桃やすももは何も言わないが、花や実を慕って人が多く集まるので、その下には自然に道ができる。徳望のある人のもとへは人が自然に集まるの喩え）という諺を指導者として自らの心構えとしています。これからも切磋琢磨しスキーを通してのさらに邁進してまいりたいと考えています。皆様の変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

特集

インタースキーと日本スキーの行方

IVSI (国際スキー指導者連盟) 副会長 福岡 孝純

2011年は、日本・オーストリアのスキー交流100年の記念すべき年だ。今回第19回インタースキーが行われたオーストリアのサン・アントンは1991年に続いての20年振りの開催である。91年大会時は日本のスキーは絶頂期にあり参加者はゲストを加えると400人に達した。今回の日本からの参加者は200人足らずである。まるで日本のスキー人口に比例しているかのようだ。20年前の91年インタースキーでは世界の潮流はまさにスキーイング・フォア・オールの達成の時でもあり、成長一服したスキー界は次のトレンドの引き金(トリガー)を追い求めていた。それがカービングスキーであった。ヨーロッパはこれにより再びスキーの遊び心をとりもどし新たなリゾートブームを作り出すに至る。それは、今度のサン・アントン大会に見るまでもなく見事に花咲いたのである。では、日本はどうなのだろうか？

1991年当時私は日本の代表講演をしたが、そのテーマは実はダブル・スタンダードであった。すなわち執行部の意見を取り入れた「機能的なスキーを求めて(技術主体)」というテーマと、私の主張する「文化としてのスキー」の二つが併記して発表されたのである。まるでオーストリア帝国の紋章の双頭の鷲のようである。しかし、この技術(機能)VS感性(文化)というテーマを私は苦勞して日本の運動競技は全て古くからの伝統である武道(剣道、弓道)のように日々の稽古に立脚した身体の習練にあるとして一つにまとめあげた。ヨーロッパがカービングスキーによりリゾートスキーの再編成をしている時、わが国ではバブルの崩壊がありスキー人口は半分以上に落ち込むような事態となった。残念ながらわが国ではリゾートやレジャーとしてのスキーは、その本質である、健康や保養のためのスポーツということをないがしろにしたためにほとんど崩壊してしまった。しかし、機能的なスキーとして、スキーを技術の習練として行うことは、S.A.J.の主催する、全日本スキー技術選手権大会を中心として生き残ったのである。しかしこれらの中心にいるスキー技術の名人たちはおのれの技術の習練には金も時間も糸目をつけないが、他者のためのスキー、健康、保養のためのスキー、レクレーションのためのスキーという視点をないがしろにした、ナルシストの集団と化してしまっただけである。確かにスキー技術というのも大切であるが本来スキーは大自然の中で営まれるアウトドアスポーツである。スキーのパイオニアであるノルウェーのフリチョフ・ナンセンは、スキーをスポーツの王者と名付けている。しかしこのナンセンがイメージするスポーツは、大自然をキャンパスに繰り広げられるスケールの大きなものであり道場

剣法のようなものではない。アルペンスキーの創立者であるオーストリアのマチアス・ツダルスキーは「人間は都会をのがれ、スキーをつけ山野を活動するとき、その人間性を取り戻せる」と述べている。今回のサン・アントン大会で私はキーノートレクチャーを行う榮譽に接した。このレクチャーで私は、日本・オーストリアスキー交流100年を祝しオーストリアの厚誼に感謝すると共に温故知新のスピリットのもと改めてアルペンスキーの源流をたどりスポーツとしてのスキーということを再認識する必要があることを強く主張した。小手先の技術ではなく、大自然の中でのひとりひとりの生命(オンリーワン)の発露の結果としての内発性のある自己表現としての身体技術でなければならない。この時人間は自然と一体のハーモニーをなし、スキーは文化となるのだ。サン・アントンで学んだこと、それは日本人が目高くあげ全ての人々が白銀の世界を楽しめるようなスキー界そして指導者をつくりあげてゆくことだと思う。



特集

自然に親しみスキーを楽しむ

S.A.J.顧問

日本スキー発祥100周年委員会 会長 丸山 庄司

先シーズンは20回ほどスキーを楽しんだ。後期高齢者に認定？されて4年目だが、今年はずっとグレンデに出たいと思っている。

近年は「ロングコースをロングターンでゆっくりと、休まず」に滑ることにしている。

50歳になった頃だった。八方尾根のゴンドラ終点の兎平から、全長3kmほどのリーゼンコースを滑って、汗びっしょりになった。しかも2回休まないと体力が続かなく愕然とした。

これを契機に53歳のとき中高年としての「小エネの滑り」に切り替えることにした。ロングコースを「止まらず汗かかず滑る」をテーマにしたのだ。どのような滑り方をすればよいのだろうか？考えながら実践し、滑り続けてきた。その結果体得したのは、一口に言えば「高い姿勢で角つけの少ないロングターン」だった。三日月型のシュプールでなく、斜め前の横滑りに近いターンである。今でもリーゼンコースを1回か2回停止するだけで、汗かかずに滑ることができ満足している。

さて、カービングスキーが出現してスキー操作が楽になった。ターンのキッカケは、次のターンする方向を目で意識して（斜面の真下を見る）軽くストックをつくか、その動作だけで、スキーはターンを開始してくれる。すかさず外足スキーでターンを意識して、ターン弧をコントロールする。そして早くターンリズムをつかむことにしている。

とはいえ、私は、最初のターンは無理してパラレルで行わず、シュテムで入り、ターンのリズムをつかんでからパラレルターンを連続して滑ることにしている。また、急斜面では、安全を意識してシュテムターンで滑ることが多い。言い換えればターンのキッカケはそのときの状況で、何でもよいとの考え方で滑っている。

ロングコースを休まずに、蛇行のシュプール

などターン弧をかえながら、スピードにも変化をさせてみる。緩斜面では滑りに余裕があるので、リズム感のある「中ターン」で滑ってみる。シャープなターン？を意識しながら足首、ひざで、エッチングの度合いを感じ、切れのある？滑走を楽しんだりしている。

休まず長く滑ることで、足裏から刻々と伝わるその滑走感覚を感じながら、白一色の雪原のなかを、自由に滑走のできることに満足し、年令も忘れてさらに意欲がわいてくる。スキーは不思議な用具である。・・・まさに、「自然に親しみながら、スキーを楽しむ」「自然との対話」を感じさせてくれるスキー。大自然に溶け込んで、それこそ、のんびりとした、ゆとりのスキー滑りである。

この本来のスキーの楽しみ方を、若いスキーヤーも体験しているのだろうか。技術の追求にキュウキュウとしていないだろうか。もしそうだったら、春の山岳スキーなど、スケールの大きいスキー滑走を体験してほしいとも思う。そして、技術はそのために磨くのだということも分かってほしいと思う。

さて、そんなロングターンに適したスキーを今シーズン小賀坂スキーから発売になることをご存知だろうか。「Hakuba・happoone-Verson」で、八方の中高年のエキスパートがテストを重ね、小賀坂スキー製作所の技術陣が完成させた。長さは167、172、177、182cmの4種類。皆さんが、それぞれ現在使用のスキーより少し長めのスキーで、スキーの楽しさとは何か、その本質に迫る滑走感覚を体験して、さらに、スキーの虜になってほしいと願って製造されたものである。私は今からそのスキーで滑走することを楽しみに、シーズンを待ちわびている。

2011.9



特集

ヴェアリアブル指導

名誉会長 菅 秀文

本協会は日本スキー教師協会と共にS.A.J.の外郭団体として設立された。日本のスキー指導者の親睦交流と情報交換の統括団体です。

雪上での交流行事と他の親睦行事を開催し、指導者の意識と昂揚を高めるのが目的です。

エージェント主催のようなエントリー制限をすべきではありません。

本来の指導はS.A.J.のマニュアルの他にスキーヤーが求めるエンジョイ感のある技法も工夫することが肝要です。常識にとらわれては新鮮味がない。クリエイティブを求めるべきでしょう。

1983年インタースキーセクステン大会で我々はペダルプッシュング技法を1987年バンフ大会ではヴェアリアブル技法を発表しました。どちらも交感神経に導かれる自然歩行とステップ、さらにペダリングと余り激しい操作をしない技法を発表し世界に一考させました。

20年ほど前にS.I.J.ルスツ大会の帰りに、独り快適な長い中緩斜面を私なりの滑りで降りてきたら、皆さん変なスキーと見たようですが、唯一人水島理事長が「ムルメル」だと理解してくれました。

これがムルメルターンです。身体軸を左右に傾け大小のシュプールを描きながらエンジョイスキーできるのです。1960年代スイスアンデルマットのシーレーターがアルプス讃歌を唄いながら、約5キロメートルを楽しんでいたのです。

約50年後、S.A.J.でカーウィングスキーの技法に身体軸基調がとられました。

北海道の「シュプール」ではスキー技法とその研究を各会員が研究発表しています。

本会でも種々のシンプルな技法の発表を求めて掲載されたいと思います。



菅 秀文 氏・略歴紹介

- 1968～ S.A.J 理事、11 期 22 年 (教育本部長、総務本部長)
第 8 回インタースキー (アスペン) バインシュピール、英語解説 (管)
- 1972 IASI (国際スキー教育連盟) 理事 5 期 20 年
- 1975 第 10 回インタースキー (ピソクダトリ) ピボット技法ソロバック語解説 (管)
- 1979 全日本スキー技術選手権 (アマ、プロオープン) を創設、女性アマ改定
第 11 回インタースキー (蔵王) 総務、外務、総括者
フリースタイルスキーを編成、S.A.J.に編入、FIS、FSS に登録
- 1983 第 12 回インタースキー (セクステン) ペダルプッシュング技法解説、英語 (管)
伊諾 (フィンクス)、狹路 (ホビヒラー)
- 1986 功労指導員、名譽検定員制度創設
クラウン、テクニカル、ジュニアテスト制度設定 (坂井氏提案)
- 1987 第 13 回インタースキー (バンフ) ヴェアリアブル技法英語解説 (管)
- その他 日本スキー指導者協会 (柴田、管他)
日本スキー教師協会 (管、片桐、岸英三、平沢他) を S.A.J 外郭団体として創設
日本スキー指導者協会名誉会長、S.A.J. (教育本部) 顧問
現在 NGO 南アジア復興 Cop 日本代表

特集

スポーツ基本法が施行された。

顧問弁護士 菅原 哲朗

も、厚生労働省が管轄していた障害者スポーツの一体的推進も含まれました。

1 新法への期待

東京五輪を機会に1961年に制定されたスポーツ振興法が50年ぶりに全面改正されて、日本のスポーツ政策の基本方針を定める「スポーツ基本法」として生まれ変わりました。

トップ選手の国際競技力向上と全国の地域スポーツクラブの支援を2本柱として、国が財政面や税制優遇の措置を講じる必要性を盛り込みました。文化庁が、1000億円超の予算を執行するのに比較して、スポーツ界への予算はわずか約230億円にすぎません。

スポーツ基本法へのスポーツ界の大きな期待と夢は未来のスポーツ庁の設置や予算を伴う国のスポーツ政策が法律の裏付けにより前進することとなります。

2 スポーツ基本法の骨子

スポーツ基本法は5章35条からなり、全ての人にスポーツを楽しむ権利を認め、下記の第2条で8つの基本理念を定めています。

基本理念のはじめに「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」という大前提で、トップアスリートによる競技スポーツも、誰もが楽しめる地域・市民スポーツも定めた内容です。

スポーツに関する紛争を仲裁・調停する機関への支援や、禁止薬物使用(ドーピング)の防止活動推進などの条文も盛り込まれています。プロスポーツの支援

第2条(基本理念)

1. 自主的、自立的なスポーツ活動
2. 学校、スポーツ団体、家庭、地域の相互連携
3. 人々の交流促進、地域間の交流の基盤整備
4. スポーツを行う者の心身の健康の保持増進、安全の確保
5. 障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるようにするための配慮
6. 競技水準の向上に資する諸施策相互の有機的な連携、効果的な実施
7. 国際相互理解の増進、国際平和への寄与
8. スポーツに対する国民の幅広い理解、支援

スポーツ界も新しい法律の流れに適応したいものです。



S.A.J.情報

新たなスキーシーズンに向けて

1911年1月12日にオーストリアのレルヒ少佐が高田において14名の専修将校へのスキー指導が日本のスキー発祥とされています。当時、伝えられたスキーはオーストリアのマチアス・ツダグスキーによって開発された急斜面を転ばず安全に滑り降りる一本杖による“リリエンフェルトスキー術”でした。最大傾斜前のシュテム姿勢(谷足半制動)と後半のシュテム姿勢を一本杖で切り換えて回転していくもので、この谷足半制動から山側にある重心を内側に運び次の半制動で回転していく技術でした。

2011年1月15日、このスキーの聖地オーストリアのサン・アントンで第19回インタースキーが開催され日本はオーストリアスキーの伝承100年の経過から発展したスキーの新しい考え方である「パラレルターンの新しい概念HYBRID SKIING」を発表しました。この概念の基本的なコンセプトは「日本スキー教程 自然で楽なスキーのすすめ」に示されているもので、地球の重力と人間の筋力を適合させることで余分な力を使わず最少の筋力を使っていく技術です。そして「健康」「パフォーマンス」及び「自然・環境」といったスノースポーツのもつ課題の解決に一步近づく提案であったと思います。会員の皆さんには長年培ってきた指導技術にこの新しい概念の指導方法を今シーズンの研修会で体得し指導活動に活用して下さい。

また、今シーズンの指導者検定実技種目において以下を部分改訂しています。

- ・ A単位 : 横滑りと停止～谷回りの連続(制動要素)に変更

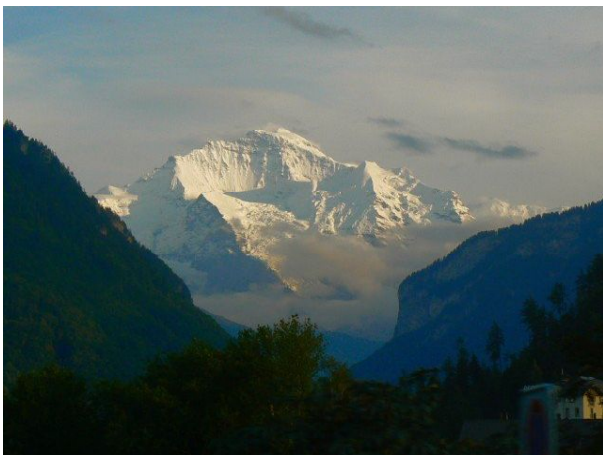
S.I.J.特別理事(S.A.J.理事)増田 千春

- ・ A単位 : 谷回りの原則的運動～谷回りの連続(推進要素)に変更
1ターンずつ行っていた谷回りが連続になった点とフェースコントロールで落下運動をコントロールする能力を課題にした2態の谷回りを設定しています。
この改訂についても今シーズンの研修会やオフィシャルブックでテーマとして取り上げていますので受検者指導にお役立て下さい。

長年にわたる指導者の研修制度は資格の停止・喪失状態の指導員を増加させています。資格継続の事務的なミスや規約解釈のミス及び社会情勢の変化と研修制度の問題と原因は、多岐にわたります。また、新法人移行の時期に近づき新たな登録システム構築が迫られています。指導者の在り方を検討し資格の停止者等の救済措置の検討をしていますので資格継続の最終年度の方は研修会の受講を忘れずお願いいたします。

昨シーズンはスキー・スノーボードの衝突事故による訴訟事例が多く聞かれる年でした。スキー用品メーカーも以前にも増し用具使用の扱いや劣化に関する知識を喚起する傾向にあります。とりわけ指導者自身の用具知識のレベルアップと安全チェックを行いより多くの人に楽しい安全なスキーを提供してください。

トップスキーヤーや指導者が個人やNPO法人で震災復興支援に様々な取り組みをみせていますが私たちも柔軟なスキー活動で新たなスキーの力を感じるシーズンにしてみましょう。



S.A.J.情報 2011-2012 教育本部行事一覧表 (2011.6.11現在)

(スキー関係)						
No	行事・会議・事業 名称	都道府県	会場	会 期		
1	第1回イグザミナー研修会	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月23日	(水)	~ 2011年11月25日 (金)
2	第1回ナショナルデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月23日	(水)	~ 2011年11月25日 (金)
3	スキー中央研修会	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月25日	(金)	~ 2011年11月27日 (日)
4	第1回SAJデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月25日	(金)	~ 2011年11月27日 (日)
5	スキー技術員研修会(北海道)	北海道	札幌国際スキー場	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	スキー技術員研修会(東北)	秋田県	八幡平リゾート	2011年12月9日	(金)	~ 2011年12月11日 (日)
	スキー技術員研修会(北関東)	群馬県	鹿沢スノーエリア	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	スキー技術員研修会(南関東)	長野県	熊の湯スキー場	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	スキー技術員研修会(甲信越)	新潟県	マウント苗場	2011年12月5日	(月)	~ 2011年12月7日 (水)
	スキー技術員研修会(東海・北陸)	岐阜県	ウイングヒルズ白鳥リゾート	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	スキー技術員研修会(西日本)	長野県	熊の湯スキー場	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	スキー学校主任教師研修会(第1会場)	北海道	キロリリゾート	2011年12月9日	(金)	~ 2011年12月11日 (日)
スキー学校主任教師研修会(第2会場)	秋田県	八幡平リゾート	2011年12月9日	(金)	~ 2011年12月11日 (日)	
スキー学校主任教師研修会(第3会場)	群馬県	鹿沢スノーエリア	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)	
スキー学校主任教師研修会(第4会場)	新潟県	マウント苗場	2011年12月5日	(月)	~ 2011年12月7日 (水)	
スキー学校主任教師研修会(第5会場)	岐阜県	ほおのき平スキー場	2011年12月18日	(日)	~ 2011年12月20日 (火)	
スキー学校主任教師研修会(第6会場)	兵庫県	奥神鍋スキー場	2011年12月18日	(日)	~ 2011年12月20日 (火)	
7	スキー大学(第1会場) A日程	北海道	朝里川温泉スキー場	2012年1月6日	(金)	~ 2012年1月9日 (月)
	スキー大学(第1会場) B日程			2012年1月6日	(金)	~ 2012年1月8日 (日)
	スキー大学(第2会場) A日程	新潟県	上越国際スキー場	2012年1月12日	(木)	~ 2012年1月15日 (日)
	スキー大学(第2会場) B日程			2012年1月12日	(木)	~ 2012年1月14日 (土)
8	スキー指導員検定会(第1会場)	北海道	朝里川温泉スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
	スキー指導員検定会(第2会場)	岩手県	網張温泉スキー場			
	スキー指導員検定会(第3会場)	長野県	菅平高原スキー場			
	スキー指導員検定会(第4会場)	石川県	金沢セイモアスキー場			
	スキー指導員検定会(第5会場)	兵庫県	奥神鍋スキー場			
9	スキーA級検定員検定会(第1会場)	北海道	朝里川温泉スキー場	2012年2月25日	(土)	~ 2012年2月26日 (日)
	スキーA級検定員検定会(第2会場)	岩手県	網張温泉スキー場			
	スキーA級検定員検定会(第3会場)	長野県	菅平スキー場			
	スキーA級検定員検定会(第4会場)	石川県	金沢セイモアスキー場			
	スキーA級検定員検定会(第5会場)	兵庫県	奥神鍋スキー場			
10	第49回全日本スキー技術選手権大会	長野県	白馬八方尾根スキー場	2012年3月6日	(火)	~ 2012年3月11日 (日)
11	日韓交流事業	長野県	白馬八方尾根スキー場	2012年3月6日	(火)	~ 2012年3月11日 (日)
12	第33回ナショナルデモンストレーター選考会	長野県	白馬八方尾根スキー場	2012年3月11日	(日)	~ 2012年3月13日 (火)
13	イグザミナー選考会	長野県	熊の湯スキー場	2012年3月30日	(金)	~ 2012年4月1日 (日)
14	S.A.J.デモンストレーター選考会	長野県	熊の湯スキー場	2012年3月30日	(金)	~ 2012年4月1日 (日)
15	教育本部会議	長野県	熊の湯スキー場	2012年3月31日	(土)	~ 2012年4月1日 (日)
16	第2回イグザミナー研修会	長野県	熊の湯スキー場	2012年4月1日	(日)	~ 2012年4月3日 (火)
17	第2回ナショナルデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2012年4月1日	(日)	~ 2012年4月3日 (火)
18	第2回SAJデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2012年4月1日	(日)	~ 2012年4月3日 (火)
19	バックカントリー講習会	富山県	立山(室堂)	2012年4月13日	(金)	~ 2012年4月15日 (日)
20	加盟団体教育本部長連絡会議	東京都		2012年6月9日	(土)	
(安全対策関係)						
No	行事・会議・事業 名称	都道府県	会場	会 期		
1	全国安全対策委員長会議	東京都		2011年11月5日	(土)	
2	パトロール中央研修会	長野県	高天ヶ原スキー場	2011年11月25日	(金)	~ 2011年11月27日 (日)
3	パトロール技術員研修会(北海道)	北海道	札幌国際スキー場	2011年12月2日	(金)	~ 2011年12月4日 (日)
	パトロール技術員研修会(東北)	秋田県	八幡平リゾート	2011年12月9日	(金)	~ 2011年12月11日 (日)
4	スキーパトロール検定会(第1会場)	北海道	ルスツリゾート	2012年3月2日	(金)	~ 2012年3月4日 (日)
	スキーパトロール検定会(第2会場)	山形県	蔵王温泉	2012年3月2日	(金)	~ 2012年3月4日 (日)
5	スキーパトロール研修会(第1会場)	北海道	ルスツリゾート	2012年3月24日	(土)	~ 2012年3月26日 (月)
	スキーパトロール研修会(第2会場)	山形県	蔵王温泉	2012年3月2日	(金)	~ 2012年3月4日 (日)
	スキーパトロール研修会(第3会場)	長野県	高天ヶ原スキー場	2012年3月16日	(金)	~ 2012年3月18日 (日)
	スキーパトロール研修会(第4会場)	兵庫県	ハチゲレンデ	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
6	第26回スキーパトロール技術競技大会	北海道	ルスツリゾート	2012年3月24日	(土)	~ 2012年3月26日 (月)
(スノーボード関係)						
No	行事・会議・事業 名称	都道府県	会場	会 期		
1	第1回スノーボードデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月23日	(水)	~ 2011年11月25日 (金)
2	スノーボード中央研修会	長野県	熊の湯スキー場	2011年11月25日	(金)	~ 2011年11月27日 (日)
3	スノーボード大学(第1会場)	北海道	朝里川温泉スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
	スノーボード大学(第2会場)	兵庫県	奥神鍋スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
4	スノーボード指導員検定会(第1会場)	北海道	朝里川温泉スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
	スノーボード指導員検定会(第2会場)	長野県	菅平高原スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
	スノーボード指導員検定会(第3会場)	兵庫県	奥神鍋スキー場	2012年2月24日	(金)	~ 2012年2月26日 (日)
5	第8回全日本スノーボード技術選手権大会	北海道	ルスツリゾート	2012年3月15日	(木)	~ 2012年3月18日 (日)
6	スノーボードデモンストレーター選考会	北海道	ルスツリゾート	2012年3月19日	(月)	~ 2012年3月20日 (火)
7	第1回スノーボードデモンストレーター合宿	長野県	熊の湯スキー場	2012年4月1日	(日)	~ 2012年4月3日 (火)
(クロスカントリースキー関係)						
No	行事・会議・事業 名称	都道府県	会場	会 期		
1	クロスカントリー指導者・検定員検定会及び研修会(第1会場)	北海道	大滝総合運動公園	2012年3月24日	(土)	~ 2012年3月25日 (日)
	クロスカントリー指導者・検定員検定会及び研修会(第2会場)	長野県	野沢温泉スキー場			

【北海道】北海道スキー指導者協会
北海道スキー指導者協会の歩み その4

副会長 藤島 勝雄

昭和62年、文部省から出された「文部省認定社会体育指導者資格付与制度」は、指導員会の存続にも関わり議論されたが、田英夫日指会長の国会での文相への質問で一定の収束を見た。

ここで新たに出てきた問題が、栗林会長が提案した「指導員会と教育部とが一体化して、競技部から分離しS.A.J.から独立しよう」とする「分離・独立問題」である。

20、会員8,000名超える

H9,10,5 平成10年度 定期代議員会及び支部長会議
(68支部 7,940名)

- ・出席代議員 55名(うち委任状23名)
- ・栗林会長挨拶
S.A.J.の肥大化からはそれぞれの分野の機能を発揮することは不可能である。「分離」「独立」を考えている
- ・日本スキー指導者協会報告
田会長と小杉文相の「社会体育指導者制度」についての質疑応答以来、文部省からの圧力がなくなった。
- ・規約改正 幹事 理事会費値上げ 800円 1,000円
- ・予算総額 7,206,575円
- ・役員改選
顧問 東野 靖信
会長 栗林 薫
副会長 速水 潔,坂井 敏夫,毛利 修三,山中 浩,
新田 利雄,鈴木 忠芳,
飯島 洋,太田 初子,大塚 博,原 栄
監査 菊田 哲夫,大黒善太郎
理事長 近藤 晃
副理事長 菊地真一郎

専門部	部長	副部長	部員
総務	福地 白	宮越 登	鈴木清二,伊藤和彦,中嶋弘志,桜井文雄,佐藤政之,阿部一行,芳賀 実
事業	中川 明	酒井嘉春	加藤修治,中村啓二郎,平哲子,金子重男,加藤英二,逢坂道夫,立山俊幸,谷口幸治
広報	竹内恒夫	田中正美	菊地賢一,三澤勝彦,畠山 皓,小栗 宏,岩崎洋隆,増岡秀夫,平岡日出夫
会計	飯田誠一	串 力男	阿部恵一

H10,3,15 朝里川温泉スキー場

オーストリアスキー技術特別研修会(参加者41名)

- ・講師 エゴン・ヒールツェガー
- ・通訳 眞木香緒里(オーストリア国家検定教師)

H10,7,19 チサンホテル浜松町

平成11年度 日本スキー指導員会

- ・日本スキー指導員会を「日本スキー指導者協会」に名称変更。昭和14年の「指導者検定制度」の歴史を考え、指導員ではなく原点の名称を大事にし「指導者」とした。連盟への変更は、北海道が強く押したが他のブロックの同意が得られなく「協会」とした。

H10,9,4・5 ホテル黒部

第13回 北海道スキー指導者連盟の集い・98オホーツク圏北見大会(参加者150数名)

- ・講演「スキーロボットが明らかにしたスキー回転の原理と実演」

福井大学教育学部教授 清水 史郎

H10,10,1 シュプール第26号(復刊第19号)

- ・巻頭言「われらOBが後輩に残す遺産」
会長 栗林 薫
- ・特集<カービングスキー>
特別寄稿オールラウンド・カービングスキーのすすめ
平沢文雄,川瀬譲治,吉田幸一,我満嘉治など6本
- ・研究・研修 12本
- ・随想 13本

- ・第12回 北海道スキー指導者連盟の集い
- ・1997稚内大会
- ・地区だより 2本
- ・事務局より

H10,10,4 ホテルノースシティ

平成11年度 定期代議員会(70支部 8,184名)

- ・出席代議員64名(うち委任状39名)
- ・次年度「集い・滝川大会」を「指導者制度60周年記念」とし、講師に平沢文雄氏
- ・予算総額:8,433,685円

H11,1,18 オーストリアスキー技術特別研修会中止決定

H11,5,24 雪印パーラー

第15回「スキー指導者の在り方を考える会」

- ・出席者:栗林、小林、西野、速水、坂井、小山、近藤

21、「分離・独立」問題

H11,7,18 チサンホテル浜松町

平成12年度 日本スキー指導者協会総会

- ・北海道からの提言「S.A.J.組織からの分離・独立について議論を深めよう」

「分離・独立」問題について

この提言及び問題の経過は以下の通り。

「分離・独立」問題についての顛末を抜き書きする。

- 1.平成8年6月、道指導員会幹事会での栗林会長発言「指導員会と教育部とが一体化して、競技部から分離しS.A.J.から独立しよう」に端を発した。
- 2.「北海道スキー指導者連盟幹事会・総会」及び「スキー指導者の在り方を考える会」の考え方は、S.A.J.は財源である教育部をないがしろにしている。指導員会は「指導者制度50周年」の記念行事を実施したが、S.A.J.は何の行事も持たなかった。「分離論」は、昭和39年にも当時のS.A.J.大熊教育本部部长が提案している。S.A.J.組織の肥大化によって、それぞれの機能が充分発揮されていない。行政的に上意下達の傾向が強くなり、中央集権的になってしまう。国際的な指導者組織との関連を考えるべきである。雪国北海道としては、競技スキーヤーより一般スキーヤーの動向が大きく影響している。毎年、準指合格者500名ずつ増えている。等のことから、「指導員会」を「指導者連盟」と名称を変更し、S.A.J.から分離・独立し別組織を作る。

考える	指導者連盟から栗林、速水、坂井、近藤
会メン	道連教育部から北河、小林、粕加屋、吉田、川瀬
バー	教育部技術顧問から西野、琴坂、簗島、小山、大野、中林

- 3.「日本スキー指導員会常任幹事会・総会」及び「七者懇話会」での議論は、

名称問題

指導員を「指導者」とすることは、その歴史から見ても何ら問題はない。しかし、「連盟」については、北海道の様に独立した組織でなく、スキー連盟内に事務局を置いている県(会報「インストラクター」の各県事務局参照)にとって「連盟」を称することは、「組織内組織」を作ることになる。従って、「日本スキー指導者協会」と改称。

(H10,7,19日本スキー指導員会総会)

分離・独立問題の議論

- ・私たちは、あくまでもS.A.J.の友好団体として発足以来の目的でいきたい。
- ・S.A.J.の問題だから、S.A.J.の評議員会に任せる。
- ・「指導者連盟」への改称や「分離・独立」への北海道の考えは理想的。しかし、これを持ち出したら割れる。
- ・北海道の様にはまとまっていない。
- ・トップ会談が必要

など、甲信越・東北・西日本・千葉から意見が述べられた。これに対して、田日指会長がH11,7,19の日本スキー指導者協会総会で「北海道の提言を、宿題として勉強していこう」とまとめて結論とした。

七者会 メンバー	日本スキー指導員会から田会長、菅前会長、 松浦元会長、金井副会長、栗林副会長、 他から福岡孝純、平沢文雄
-------------	--

4、その後

田日指会長が、H11,6,26「S.A.J.選手の健闘をたたえる会」の席上で、堤S.A.J.会長、丸山教育本部長に15分ほど「社会体育指導者制度問題」と「分離・独立の意見がある」ことを伝えた。

栗林会長が「分離・独立の問題は1年や2年で解決する問題ではない。10年を要するかもしれない。陽光が見えるまで頑張りたいと思っている」と発言。

「スキー指導者の在り方を考える会」は、栗林道指会長が入院したこともあり、H12,1,15、「発展的解散」。

H11,9,26北海道スキー指導者連盟代議員会で、「分離・独立の強い表現は避けて、S.A.J.の組織再編の推進の議論を深めて行きたい」。

H8年6月から始まった、教育部・指導員会のS.A.J.からの「分離・独立」問題は、決着をみた。七者会の議論経過を見ると「総論賛成、各論反対」であり、北海道と他都府県の指導員会の、連盟内での立場の違いがこのような結果となった。この「温度差」は、日本スキー指導者の発足当時からあり、現在もまた続いている問題である。

H11,9,5 松尾ジンギスカン本店

指導者制度60周年記念 第14回 北海道スキー指導者連盟の集い・1999滝川大会（出席者230余名）

- ・功績者表彰：S32,2~40,3の準指取得者のなかで、表彰規定により各地区から表彰申請された者（32地区202名、うち出席者90名、平均67.3歳）
- ・記念講演「カービングスキーの効果的な使い方」
講師 平沢スキー研究所 平沢 文雄

H11,9,26 ホテルノースシティ

平成12年度 定期代議員会（73加盟団体 8,244名）

- ・出席代議員61名（うち委任状34名）
- ・日本スキー指導者協会報告
分離・独立問題が、初めて日本スキー指導者協会のテーマに載り議論した。
- ・今後は、分離・独立の強い表現は避けて「S.A.J.の組織再編の推進」の議論を深めて行きたい。
- ・全道各指導員会の「連盟」への改称問題
各加盟団体の「連盟」への改称について強制はしない要望である。
- ・規約改正 三役会議・加盟団体会長会議・特任理事（教育本部長）を規約に位置づける。
- ・予算総額：9,169,888円
- ・役員改選

顧問 東野 靖信, 坂井 敏夫, 新田 利雄
会長 栗林 薫
副会長 速水 潔, 山中 浩, 飯島 洋,
毛利 修三, 太田 初子, 大塚 博,
原 栄, 鈴木 忠芳, 中村啓二郎

小山 隆司

- 監 査 菊田哲夫, 大黒善太郎
- 特任理事 小林 俊勝
- 理事長 近藤 晃
- 副理事長 菊地 真一郎

専門部	部 長	副 部 長	部 員
総 務	福地 白	桜井文雄	鈴木清二, 伊藤和彦, 中嶋弘志 坂本 侃, 古川英雄, 藤島勝雄, 中川昌治
事 業	中川 明	福島英彦	平哲子, 金子重男, 加藤英二, 逢坂道夫, 谷口幸治, 西田孝, 阿部一行, 坂井和夫
広 報	竹内恒夫	田中正美	長縄 博, 三澤勝彦, 畠山皓, 平岡日出夫, 岩崎洋隆, 武田克宏, 加藤修治, 小栗 宏
会 計	飯田誠一	大住啓助	阿部恵一

道連理事(H8年~11年)として「分離・独立」問題の最中にいた私は、半分は期待し半分は無理だなどと思って推移を見ていた。一般指導員の方々は、あまりよく分らなかった半分「連盟内連盟」を作ることへの反発半分でなかったろうか。

強制はしないと言いながら、きつい「指導者連盟」への改称要請にもかかわらず、名称変更した各地区指導員会が過半数に達していないことから何われる

この年、道連理事が終わってほっと一息した時、栗林会長から声がかかり指導員会理事となり最初の疑問は、理事推薦基準の「ブロック」と「方面」は矛盾する、ということであった。「私は、千歳線方面、日高方面、室蘭方面、どの方面から選出されたか」この質問は、理事会では相手にされなかった。この後も私の疑問は続く。「副会長の多さは?」「引当金とは?」「日指への役員の多さは?」「今年のシュプールに去年の役員名簿が載るのは?」「メイン行事の「集い」が何故中止になる?」「教育本部と連携、といいながら幹部に会ったことがない?」等々。

これらの不合理は、規約の全面改正まで暫く続く。

22、栗林会長辞任、後任問題もめる

H11,10,1 シュプール第27号(復刊第20号)

- ・巻頭言「大転機を迎えるスキー界に思う」

会 長 栗林 薫

- ・研究・研修 11本
- ・随想 12本
- ・第13回北海道スキー指導者連盟の集い・1998北見大会
- ・事務局シリーズ

H12,4,15 キロロスキー場

第1回 S.I.J. (日本スキー指導者協会) カップキロロフェスティバル

- ・選手出場：150余名(うち北海道27名)

日本スキー指導者協会として初めての雪上での行事である。関東方面から「北海道スキーツアー」のついでに半分位の指導員のポールへの挑戦であった。腕の覚えの北海道の出場選手が、優勝者・入賞者が多数輩出したのは当然であろう。しかし、親睦大会としての大きな役割を果たした第1回大会であった。

H12,6,25 白金四季の森ホテルパークヒルズ

第15回 北海道スキー指導者連盟・2000美瑛大会

- ・会長挨拶：速見潔会長代行(栗林会長入院中につき、H12,2,28常任理事会で決定)
- ・講演：「国際的視野でのスノースポーツの現況について」日本職業スキー教師協会 会長 杉山 進

H12,9,24 ホテルノースシティ

平成13年度 定期代議員会（73加盟団体 8,321名）

- ・出席代議員55名(うち委任状36名)
- ・次年度予算：9,768,545円

同上 加盟団体会長会議 H12,9,24 ホテルノースシティ

- ・新規約に則り第1回を開催し、組織上の問題点などの情報交換をした。

H12,10,1 シュプール第28号(復刊21号)

- ・巻頭言「スキー離れに思う」会長代行 速水潔
- ・論評・研究 4本
- ・随想 12本
- ・表彰受賞者随想 10本
- ・報告A(ベテラン指導員研修会) 5本
- ・報告B(第1回S.I.J.カップキロロ大会) 5本
- ・指導員制度60周年記念 第14回北海道スキー指導者連盟の集い・1999滝川大会
- ・第1回 S.I.J.カップフェスティバル キロロ
- ・事務局だより

H12,11,26 雪印パーラー

第1回 理事会(出席者 30名)

- ・栗林会長の体調不良による任期途中の「会長職辞意」を受け新会長選任の審議。
- ・栗林会長は、北河道連副会長(前教育本部長)を後任に推薦・北河会長案に対し「この会に一度も出席していない」「先の社会体育指導者制度を道連教育本部長として推し進めたことで、制度反対の田日指会長との関係への考慮」などで難色を示す理事が多く、会長代行を務めた速水副会長を推す意見多数。
- ・速水副会長は、「会長代行もなんら評価されず、本連盟に幻滅を感じ辞退する」と発言する場面があった。
- ・理事会としての結論が出ず、臨時代議員会に「理事会では、お二人の名前が出て速水副会長を推す声が多かった」と報告し臨時代議員会の決に委ねる。

同上 臨時代議員会 <会長選任会議> H12,11,26 雪印パーラー

- ・出席代議員19名、委任状37名
- ・理事会の意向を踏まえ、北河道連副会長か速水副会長か議論百出
- ・代議員の挙手採決の結果、速水12、北河6、棄権1、速水副会長を残留期間の会長と決定する。

H13,3,2~4 朝里川温泉スキー場

第26回 ベテラン指導員特別研修会朝里会場(参加者 30名)

- ・ハンネス・シュナイダー「狐狩り」上映
- ・第21回以来のタイム差レース実施

H13,4,15 キロロスキー場

第2回 S.I.J.カップキロロフェスティバル

- ・ツアー参加者 東京、神奈川から320名(選手出場157名 北海道29名)
- ・今回も、北海道からの選手の優勝・入賞者多数。

23、集い・札幌大会中止

H13,6,16 雪印パーラー

第2回 理事会

- ・第16回北海道スキー指導者連盟の集い・札幌大会の開催について札幌スキー指導員会連絡協議会の「札幌大会は開催出来ない」との回答の意を受け中止の決定。

H13,8,5 チサンホテル浜松町

平成14年度 日本スキー指導者協会総会

- ・役員改選：会長 田 英夫(留任)
- ・北海道関係(いずれも留任)
 - 名誉顧問 栗林 薫
 - 副会長 速水 潔,
 - 常任幹事 近藤 晃,菊地真一郎
 - 幹事 福地 白,飯田 誠一

H13,9,30 ホテルノースシティ

平成14年度 定期代議員会(73加盟団体 8,147名)

- ・出席代議員63名(うち委任状38名)

- ・予算総額：10,839,071円

役員改選

- 名誉会長 栗林 薫
- 顧問 東野 靖信,新田 利雄,
- 坂井 敏夫(H13,11,9 理事会で副会長に)

会長 速水 潔

- 副会長 山中 浩,飯島 洋,毛利 修三,大塚 博,
- 原 栄,鈴木 忠芳,中村啓二郎,北河 茂,
- 近藤 晃

監査 大黒善太郎,小栗 宏

特任理事 小林 俊勝

理事長 福地 白

副理事長 喜沢一史

専門部	部長	副部長	部員
総務部	藤島勝雄	古川英雄	伊藤和彦,坂口和雄,渡邊恒男 長縄 博,吉田英一,西田 孝 谷口幸治
事業部	坂井和夫	野坂晃次郎 土谷俊介 大井浩誌	逢坂道夫,内藤彰,米澤留吉 阿部一行,富田忠雄,加藤英二
広報部	竹内恒夫	田中正美	中嶋弘志,畠山皓,佐藤秀志 澤隆司,武田克宏,杉山重之 平岡日出夫

同上(午後)加盟団体会長会議 H13,9,30 ホテルノースシティ

- ・各団体の実情及び情報交換

H13,10,1 シュプール第29号(復刊22号)

- ・巻頭エッセイ「スキー離れに想う(2)」会長速水潔
- ・論評・研究 4本
- ・随想 13本
- ・キロロ大会 5本
- ・第15回 北海道スキー指導者連盟の集い・2000美瑛大会
- ・第2回 S.I.J.カップフェスティバル キロロ
- ・事務局シリーズ

H14,4,13 ニセコ東山

第3回 S.I.J.カップニセコ東山フェスティバル

- ・出場選手 130名(北海道48名)

H14,7,6 雪印パーラー

三役会

- ・坂井敏夫副会長、残任期間を会長代行
- ・速水潔会長、体調不良のため辞意を表明

H14,8,15 チサンホテル浜松町

平成15年度 日本スキー指導者協会

- ・ゴルフ大会(毎年継続開催)
- ・S.I.J.カップキロロ大会実施
- ・次回S.I.J.カップは、ニセコ東山にて開催予定

H14,9,1 名寄温泉 サンピラーホテル

第16回 北海道スキー指導者連盟の集い<2002名寄大会>

- ・講演「北海道の山から世界最高峰へ」
女性アルピニスト 高橋 留智亜
(2000年春、日本女性として4人目に世界最高峰エベレスト登頂を果たした)

H14,9,28 ホテルノースシティ

平成15年度 定期代議員会(73加盟団体 7,943名)

- ・出席代議員72名(うち委任状36名)
- ・予算総額 11,924,042円
- ・会長人事
速水会長の辞意を承認し、この代議員会で会長を選任する。
現在会長代行の坂井敏夫副会長を会長に選任。
- ・予算総額：11,924,042円

栗林前会長に続いての任期中での会長辞任である速水会長の後任を誰にするか、会長代行か、会長か相当の議論があった。

この年は、昭和27年10月に「北海道一般スキー指導員会」として、全国に先駆けて発足して50年になった。が、会長人事のごたごたなどで記念事業等は何ら行わなかった。

同上 加盟団体会長会議 H14,9,28 ホテルノースシティ

・各団体の実情及び情報交換

H14,10,1 シュプール第30号

(記念特集号 この号から“復刊”を取る)

- ・巻頭エッセイ「シュプール第30号発刊に想う」
会長 速水 潔(会長は既に印刷済み)
- ・記念号として、過去の集い・式典の写真を特集した
- ・記念号として、表紙の色を青、広告掲載を復活させた。
- ・論評・研究 4本
- ・随想 20本
- ・S.I.J.カップ・特研報告 8本
- ・第3回 第3回S.I.J.フェスティバル 東山
- ・事務局便り

H14,11,8 スクワール麹町(東京)

日本スキー指導者協会創立20周年記念式典及び祝賀会

- ・功労者表彰(北海道関係)
故柴田信一、中川伊佐美、栗林薫、速水潔、近藤晃飯田誠一、福地 白

H15,4,13 ニセコ東山

第4回 S.I.J.カップ東山フェスティバル

- ・参加者 132名(北海道60名)
- ・悪天候のためGSレースは中止。
- 閉会式・懇親会で協賛商社提供品の抽選会

H15,8,2 チサンホテル浜松町

平成16年度 日本スキー指導者協会総会

- ・S.I.J.カップニセコ東山大会は、濃霧でGSレースが中止
- ・インタースキースイス・クランモンタナ大会報告
- ・役員改選(本連盟関係)
名誉顧問:栗林薫 副会長:坂井敏夫、近藤晃、
常任幹事:福地白 幹事:飯田誠一、喜澤一史

H15,8,30 グリーンホテル札幌

第17回 北海道スキー指導者連盟の集い・2003札幌大会

- ・歓迎挨拶:北海道自衛隊スキー指導員会
会長 粕加屋 實
- ・講演「夢への挑戦」
元スピードスケート日本代表 堀井 学
(世界大会優勝27回、世界記録4回、日本記録4回)

24、坂井敏夫会長就任

H15,9,28ホテルノースシティ

平成16年度 定期代議員会(73加盟団体 8,004名)

- ・出席代議員73名(うち委任状34名)
- ・規約改正 理事推薦ブロックが「方面」などの多くの不合理条項を整備
- ・予算総額 12,213,819円、
- ・「特別会計」の設定
H15,6,24速水前会長が逝去され、ご遺族から本会への寄付(10万円)を元に、広告代金を含めて特別会計を設定し今後の備えとした。

- ・役員改選
名誉会長 栗林 薫
顧問 東野 靖信、新田 利雄
会長 坂井 敏夫
副会長 山中 浩、飯島 洋、毛利 修三、
大塚 博、原 栄、鈴木 忠芳、

中村啓二郎、近藤 晃、畠山 皓、
坂井 和夫、富田 忠雄
監査 大黒善太郎、小栗 宏
特任理事 吉田 英一
理事長 福地 白

副理事長 喜澤 一史、佐藤 秀志

専門部	部長	副部長	部員
総務部	藤島勝雄	古川英雄	伊藤和彦、坂口和雄、渡邊 恒男 谷口幸治、伊藤 博
事業部	加藤英二	逢坂道夫	野坂晃次郎、大井浩 誌、西 田孝 阿部一行、平賀秀勝、玉田進 山田和広
広報部	竹内恒夫	田中正美	中嶋弘志、大澤隆司、佐藤 眞 二ツ谷正、杉山重之、三浦 光男 登山一成、畑 隆雄
会計	飯田誠一	阿部恵一	井上光男

日本スキー指導者協会の役員になっても、日本スキー指導者協会から会議出席の旅費が支給されるわけではない。6名の旅費は総て本会からの出費である。

同上 加盟団体会長会議 H15,9,28ホテルノースシティ

・坂井会長挨拶:「連盟」と変えて数年経過しているが加盟団体で旧来通りのところも多い。今後、議論のうえ「名称変更検討」の考えを持っている。

・各加盟団体の実状・情報交換

H15,10,1 シュプール第31号

・巻頭エッセイ「スキー指導者の心意気と風格
第6代会長となって」会長坂井 敏夫

- ・<追悼>速水潔前会長を偲んで
事務局(追悼特集) ほか6名
- ・研究・研修 6本
- ・紹介・随想 16本
- ・第16回北海道スキー指導者協会の集い・2002名寄大会
- ・第4回 S.I.J.カップフェスティバル東山
- ・事務局便り

H16,4,20 ルスツ

第5回 S.I.J.カップ フェスティバル ルスツ

・参加者:69名 うち北海道31名

H16,7,31 チサンホテル浜松町

平成17年度 日本スキー指導者協会総会

- ・S.I.J.キロロカップ報告
- ・次回S.I.J.カップはキロロスキー場(17,4,10)にて開催予定

H16,8,28 東山プリンスホテル

指導者制度65周年記念 第18回北海道スキー指導者連盟の集い・2004ニセコ大会

- ・功績者表彰:各団体から推薦のあった受賞者319名うち37名出席
- ・特別講演「スキー指導員の今昔」会長 坂井 敏夫
- ・記念講演「幻の雪を求めて」
北海道大学名誉教授 藤野 和雄
(元北大低温科学研究所長)

H16,9,26 ホテルノースシティ

平成17年度 定期代議員会(73加盟団体 7,859名)

- ・出席代議員51名(うち委任状27名)
- ・「連盟」の名称について、ベストなのか検討していく
- ・会費長期未納団体に対する扱い
- ・本連盟の新事業として、喜澤副理事長を中心に「ホームページ」の開設を承認
- ・副会長の人数が多いとの意見多数
- ・予算 一般会計13,043,533円
特別会計 1,277,000円

同上 加盟団体会長会議 H16,9,26 ホテルノースシティ

・坂井会長挨拶:メリットが無いからと会を辞める指導員が多くなってきているが、メリットは会が作る

ものでなく自らが作り出すものである。
 ・慶弔規定を中心に、各団体の実情・情報交換を行った。

H 16, 10, 1 シュプール第32号

- ・巻頭エッセイ
 「スキー人口下降の一面を考えて」会長坂井敏夫
- ・追悼<速水・源吉・フルキンさん>
- ・地域紹介 3本
- ・研究 1本
- ・特別寄稿 2本
- ・随想 11本
- ・第17回北海道スキー指導者協会の集い・2003札幌大会
- ・第5回 S.I.J.カップフェスティバル ルスツ
- ・事務局便り

H 17, 1, 29 ホテルノースシティ

第1回 特別検討委員会

- ・坂井会長挨拶 通常の会議では出来ない突っ込んだ議論が必要である。
- ・意見及び議論
 「引当金は問題」「集いは札幌を4つに分け、19回大会は札幌で開催」「会費の還付は」「協会への名称変更を進める」「副会長は若干名が10名はおかしい」

これらの意見・決定を理事会・代議員会に諮る。

H 17, 4, 10 キロ口

第6回 S.I.J.カップフェスティバル キロ口

- ・参加選手 59名

H 17, 8, 7 チサンホテル浜松町

平成18年度 日本スキー指導者協会総会

- ・S.I.J.キロ口カップ大会報告
- ・西日本ブロック脱退届け
- ・役員改選(本連盟分)
 顧問:毛利修三 副会長:坂井敏夫
 常任理事:福地白(後に理事長交代により藤島勝雄と交代) 幹事:喜澤一史

25、「北海道スキー指導者協会」に改称

H 17, 9, 25 ホテルノースシティ

平成18年度 定期代議員会(70加盟団体 7,390名)

- ・出席代議員61名(うち委任状24名)
- ・規約改正
 北海道スキー指導者連盟「北海道スキー指導者協会」に名称を変更
 各加盟団体の名称がそのままではなんら問題ない。
 実質会費一人当たり900円とする
 専門部の「会計部」を廃止し、その業務は総務部とし副総務部長が担当する
- ・「集い・札幌大会」中止。
 次年度「札幌」で開催予定
- ・予算額 一般会計13,769,236円、
 特別会計 2,859,020円
- ・役員改選
 顧問 毛利修三,大塚 博,原 栄,鈴木忠芳
 近藤 晃,富田忠雄,福地 白
 会長 坂井 敏夫
 副会長 中村啓二郎,畠山 皓,坂井和夫,坂口一弘
 監査 大黒善太郎,小栗 宏
 特任理事 吉田 英一
 理事長 藤島 勝雄
 副理事長 西田 孝,喜沢 一史

専門部	部長	副部長	部 員
総務部	佐藤秀志	古川英雄 安田豊重	伊藤和彦,坂口和夫,渡邊恒男, 高木昌敏,登山一成,輪島祥司 松原信勝,江戸邦子,井上光男, 櫻 満雄,増田益男
事業部	加藤英二	山田和広	阿部一行,平賀秀勝,久井忠篤 北川敏昭,野坂晃次郎
広報部	竹内恒夫	大澤隆司	中嶋弘志,杉山重之,三浦光男 玉田進,田中正美,早川志津雄

加盟団体数や会員数が、H12,9の73団体、8,321

名をピークに減少してきている。

これは、「指導員会連盟」への改称、「会長人事問題」、「各団体の任意登録」が影響していると思われる。また、「入会のメリットが無い」と思われていることも大きな要因かと思われるが、H16,9,26の加盟団体会長会議で坂井会長が「メリットは会が作るものではなく、自分自身が作るもの」と答えている。

会員数の減少にもかかわらず予算が多くなっているのは、引当金名目の繰越金が多いことと、未納金の納入を見込んでのことである。

「名称」「副会長」等、多くの懸案事項が整備され新理事会体制に変わった代議員会であった。また、後日の理事会で「互選」していた理事長を、当日、新理事も召集しての「新理事会」で決定した。しかし、問題はまた山積みであり、次回代議員会で提案することになる。

同上 加盟団体会長会議 H17,9,25 ホテルノースシティ

- ・各会長から、本協会の事業「集い開催」「シュプール発刊」等についての意見や要望をきき、今後の事業の展開に役立てる。

H 17, 10, 1 シュプール第33号

- ・巻頭エッセイ「i/f ゆらぎ感得をスキーで挑戦」
 会長 坂井 敏夫

- ・<追悼特集>栗林薫元会長を偲んで 広報部他3本
- ・研究・研修 7本
- ・随想 10本
- ・平成17年度 指導員・準指導員検定合格者の氏名掲載(今回初めて掲載)
- ・第18回 北海道スキー指導者協会の集い・2004ニセコ大会
- ・第6回 S.I.J.カップフェスティバル キロ口
- ・事務局便り

H 17, 12, 18 日本スキー指導者協会から

「H18,4,キロ口で開催予定のS.I.J.カップは中止」連絡

H 18, 5, 15 本協会ホームページ開設

H16,9,26の代議員会で承認された後、担当者の都合で大幅に遅れた上に古い資料掲載など、本不意な開設ではあったが兎も角スタートした。現在は、月々各種スキー界の情報を提供するなど順調に発信し続けている。 < <http://saih.jp> >

H 18, 7, 23 ホテルノースシティ

第19回 北海道スキー指導者協会の集い・2006札幌大会

- ・講演「ワールドカップのスキー技術」
 元S.A.J.ナショナルチーム 木村 公宣
 「技術選に見るこれからのスキー技術」
 S.A.J.デモンストレーター 我満 嘉治
- ・パネルディスカッション
- ・**H 18, 7, 30 チサンホテル浜松町**
 平成19年度 日本スキー指導者協会総会
- ・西日本ブロック大会経過説明
- ・S.I.J.キロ口カップ中止
- ・決算額:2,950,988円
- ・S.A.J.スキー大学(朝里)参加ツアー
- ・次回S.I.J.カップは八方尾根スキー場
- ・インタースキー(韓国)参加ツアー

26、「集いローテーション表」承認

H 18, 9, 24 ホテルノースシティ

平成19年度 定期代議員会(67加盟団体 6,534名)

- ・出席57名(委任状含む)
- ・「代議員会議案書」を事前に、の要望があり次年度から実施
- ・加盟団体への活動助成金(1万円)を予算化
- ・理事空白ブロックであった、北空知から櫻満雄、南空知から益田益男を承認
- ・認定指導員合格者にもシュプール贈呈
- ・規約一部改正
 「監査」「監事」に変更
 三役会議の構成員のうち「監事」を外し「理事長」を入れる
 「役員選考委員会」を設置
- ・引当金方式をやめ、繰越金508万円のうち300万円を特別会計に繰り入れる

- ・ 予算 一般会計8,879,530円
特別会計4,462,026円
引当金として繰り越していた不合理を解消するため300万円を特別会計に繰入れた。
- ・ 提案 「集い」の開催を確実にし、主管団体の活性化を図るため「集い開催地ローテーション表」が承認される。

ブロック	担当年度	加盟団体	
第1	札幌	2006	中央、東、西、南、北白石、豊平、厚別、手稲、清田
	石狩	2011	当別、江別、千歳、恵庭、北広島、石狩
	自衛隊	2016	北海道自衛隊
第2	渡島・檜山	2007	函館
	後志	2012	二セコ、岩内、余市、小樽、積丹、仁木
第3	胆振・日高	2017	室蘭、登別、虻田、伊達、豊浦、苫小牧、日高
	網走	2008	北見市、北見地区、網走、遠軽地方、紋別、遠軽
第4	道東	2013	釧路、根室
	旭川	2009	旭川
第5	道北	2014	名寄、稚内、美深、士別
	留萌	2018	留萌、羽幌、増毛、苫前、初山別、天塩
第5	上川	2010	富良野、上富良野、美瑛、占冠
	北空知	2015	滝川、赤平、芦別、上砂川、新十津川
	南空知	2019	美唄、三笠、夕張、追分、奈井江、栗山、長沼、由仁

1、ブロック内の加盟団体間で担当する順序、
或いは合同開催かを定める。
2、各加盟団体の周年事業は考慮する。

今までは、「来年は何処に」とか「何となくご好意」で引き受けてもらっていた「集い」の開催地は、引き受け地が無い年があった(過去2回)。ローテーションを決めることで、準備がしやすくなり、その準備段階・開催によって実行団体の活性化を期待してのローテーション表の作成であった。

同上 加盟団体会長会議 H18,9,24 ホテルノースティ
・本協会規約の「表彰規定」に意見を出し合い、「本協会に尽力」を広く解釈する。

H18,10,1 シュプール第34号
・巻頭エッセイ「意識改革の理由はどの辺にあるか」
会長 坂井 敏夫

- ・ <追悼> 山中浩前副会長
- ・ 研究・研修 4本
- ・ 回顧・随想 6本
- ・ 随想(検定) 7本
- ・ 平成18年度 準指・指導員合格者氏名
- ・ 第19回 北海道スキー指導者協会の集い・2006札幌大会
- ・ 事務局日より

この年から、長年懸案であった「会議報告・役員名簿等を、その年のシュプールに載せる」が果たされた従って、この号には「代議員会報告」が2年分掲載されることとなった。

H19,2,22 札幌ドーム
ノルデック世界選手権札幌大会応援

やっと誘致した札幌大会の観客の少なさが新聞報道され、急遽、坂井会長提案で本協会会員30余名が札幌ドームでの開会式・スプリント競技を応援した。夏目円選手が初めて5位入賞を果たした場面に会えて大感激の大会応援であった。

H19,7,21 ホテルルポール麹町

- 平成20年度 日本スキー指導者協会総会
- ・ 第8回S.I.J.カップ白馬(19,4,8) 55名参加
 - ・ 決算額 2,790,833円

- ・ 次回S.I.J.カップは八方尾根スキー場開催予定
- ・ 役員改選(本協会関係)顧問:毛利修三、近藤 晃
副会長:坂井敏夫
常任幹事:藤島勝雄 幹事:中村啓二郎

H19,728 花びしホテル(函館)

- 第20回北海道スキー指導者協会の集い・2007函館大会
- ・ 講演「スキースポーツ復興のために私たちができること」S.A.J.デモンストレーターコーチ 我満嘉治
 - ・ 対談「道南が生んだスーパースター佐々木明を語る」
コーディネーター 我満 嘉治、
地元後援会副会長 花巻 昭英
ニヤマJrレーシングコーチ 松本 俊
佐々木明の母 佐々木満智子

27、懸案事項解消へ

H19,9,9 ホテルノースティ

平成20年度 定期代議員会(65加盟団体5,962名)

- ・ 出席代議員48名(委任状含む)
- ・ 要望事項 「会費長期未納団体への対応」「会員名
- ・ 次年度集いは、網走・北見地区が担当
- ・ 世界ノルデックスキー選手権札幌大会事務局へ特別簿書式の作成」「助成金の使途」会計から20万円
- ・ 予算 一般会計6,803,258円 特別会計4,311,063円
- ・ 役員改選
顧問 毛利 修三、鈴木 忠芳、近藤 晃、福地 白、
小林 俊勝
会長 坂井 敏夫
副会長 中村啓二郎、坂井 和夫、坂口 一弘、
加藤 英二
監事 大黒善太郎、小栗 宏
特任理事 吉田 英一
理事長 藤島 勝雄
副理事長 西田 孝、三浦 光男

専門部	部長	副部長	部 員
総務	佐藤秀志	古川英雄 安田豊重	伊藤和彦、渡邊恒男、高木昌敏 登山一成、井上光男、大谷清人 大山忠嗣
事業	玉田 進	大澤隆司	平賀秀勝、輪島祥司、杉山重之 早川志津雄、高岡正治、佐藤信一、 松木謙一、野坂晃次郎、塩内 忠
広報	中田 章	山田和広	櫻 満雄、久井忠篤、北川敏昭 宮本義夫、大山口博、中村昇太 金羽 秀

加盟団体、会員のニーズの応える道協会でありたいと考へ、前回要望の「議案書を早く各加盟団体へ」を実施した。当たり前のことを当たり前に実施できる組織でありたいと思う。

同上 加盟団体会長会議 H19,9,9 ホテルノースティ
・本協会の「慶弔規程」の各加盟団体の取扱について
情報交換

H19,10,1 シュプール第35号

- ・ 巻頭エッセイ「世界ノルデック選手権大会に思う」
会長 坂井 敏夫
- ・ 追想「畠山 皓」
- ・ 主張・研究 2本
- ・ 地区紹介 2本
- ・ 随想 16本
- ・ 2007年度準指・認定・指導員検定合格者
- ・ 特集:学校体育「スキー授業」の支援(ボランティア)事業
- ・ 第20回北海道スキー指導者協会・2007函館大会
- ・ 事務局日より

H20,7,20 ホテル黒部(北見)

- 第21回 北海道スキー指導者協会の集い
- ・ 2008網走ブロック大会(参加者133名)
 - ・ お祝いの言葉 日本スキー指導者協会名誉会長 菅秀文
 - ・ 講演「スキー指導の課題と活性化」
全日本スキー連盟 教育本部長 平川 仁彦
 - ・ グレステンスキー見学

H20,7,27 ホテルルポール麹町

平成21年度 日本スキー指導者協会総会
 ・会報「インストラクター第23号」発行(25,000部)
 ・S.I.J.カップ白馬大会(20,4,13)81名参加
 ・決算額 2,600,051円
 ・次回S.I.J.カップはルスツ(21,3,28)で開催予定

H20,9,14 ホテルノースシティ

平成21年度 定期代議員会(60加盟団体 5,507名)
 ・出席代議員48名(委任状を含む)
 ・代議員の要望により、今年度から代議員会議案書に「助成金事業報告」を記載
 ・次年度「指導者制度制定70周年記念事業」を旭川で「集い」と併催
 ・予算 一般会計6,495,515円 特別会計4,451,868円

同上 加盟団体会長会議 H20,9,14 ホテルノースシティ

・「指導者制度制定70周年」をどう祝うか。
 ・指導員活動の活性化を図るにはどうしたらよいか。

H20,10,1 シュプール第36号

・A4版 緑色表紙
 ・巻頭エッセイ「『近代五輪』アテネから中国北京までの大きな変革について」 会長 坂井 敏夫
 ・特集「井山デモ技術選2連覇祝賀会」
 ・主張・研究・報告 4本
 ・地区紹介 2本
 ・随想 14本
 ・2008年度準指・認定・指導員検定合格者
 ・「北海道スキー指導者協会の歩み」
 ・第21回 北海道スキー指導者協会の集い2008網走ブロック大会
 ・事務局だより

広報担当者が交代して2年目、「品格と格調を重んじ、内容の充実を図ることを心がけ(編集後記)」本格的な変革に取り組んだ。印刷会社を入札によって決めた。文字を大きくしA4版とした。表紙を伝統のグリーンに戻した。60年になんなんとする本協会の歴史に初めてに取り組んだ第36号であった

H21,2,15 S.I.J.カップルスツ大会

(H21,3,28開催予定)中止連絡

28、指導者制度制定70周年

H21,7,4 旭川ターミナルホテル

第22回 北海道スキー指導者協会の集い
 スキー指導者制度制定70周年記念・2009旭川大会(参加者113名)
 ・制度制定70周年記念表彰式
 受賞者総数358名のうち47名出席
 ・記念講演
 「生きがい」~75歳エベレストへの挑戦~
 高齢化社会におけるチャレンジと夢
 冒険家 三浦雄一郎

H21,7,26 ホテルスクワール麹町

平成22年度 日本スキー指導者協会総会
 ・決算額 1,516,099円
 ・次回S.I.J.カップは車山スキー場(22,4,4)開催予定
 ・役員改選 会長 坂本祐之輔(埼玉)
 (本協会関係)顧問:毛利修三 副会長:坂井敏夫
 常任幹事:藤島勝雄 幹事:中村啓二郎

H21,9,13 ホテルノースシティ

平成22年度 定期代議員会(59加盟団体5,359名)
 ・出席代議員42名(うち委任状21名)
 ・HPサーバー会社交代
 ・予算 一般会計5,804,336円
 特別会計4,557,180円
 ・役員改選
 顧問 毛利 修三,小林 俊勝,福地 白,
 会長 坂井 敏夫
 副会長 中村啓二郎,坂井 和夫,坂口 一弘,加藤 英二
 監事 小栗 宏,遠藤 滋

特任理事 吉田 英一
 理事長 藤島 勝雄
 副理事長 西田 孝,三浦 光男

専門部	部長	副部長	部員
総務	佐藤秀志	古川英雄 安田豊重	高木昌敏,登山一成,大山忠嗣, 杉山重之早川志津雄,前川廣明
事業	玉田 進	成澤清男	輪島祥司,井上光男,高岡正治, 佐藤信一,齊藤悟,飯塚 淳, 駒形武志,岡島謙俊 西出博美
広報	中田 章	山田和広	櫻満雄,岩瀬均,北川敏昭 宮本義夫,中村昇太 金羽秀,角 秀

同上 加盟団体会長会議 H21,9,13 ホテルノースシティ

・「機関誌シュプールを全会員に行き渡らせるには」の情報交換

H 21,10,1 シュプール第37号

・巻頭エッセイ「アマチュアからプロへの変換について」 会長 坂井 敏夫
 ・主張・研究 2本
 ・報告・特別寄稿 3本
 ・地区紹介 5本
 ・特集「第5回北海道マスターズ技術選大会観戦記」
 ・随想 13本
 ・北海道スキー指導者協会の歩み
 ・指導者制度制定70周年記念 第22回北海道スキー指導者協会の集い・2009旭川大会
 ・事務局だより

H22,3,20 S.I.J.カップ車山大会

(H22,4,4開催予定)雪不足の為中止連絡

H22,7,3 プラザトミヤマ(上富良野)

第23回 北海道スキー指導者協会の集い・2010上富良野大会(参加者 80名)
 ・講演「木村流スキー理論とスキーから学んだもの」
 富良野 木村公宣スキースクール 代表 木村公宣
 (木村氏、「集い」2回目)で前回とは観点を变えての講演)

H22,8,8 ホテル芝弥生

平成23年度 日本スキー指導者協会総会
 ・S.I.J.カップ車山大会、雪不足で中止
 ・決算額 1,907,250円
 ・次回S.I.J.カップは蔵王(23,4,3)で開催予定
 ・規約改正 指導員 指導者、常任幹事 理事、幹事
 代表委員、監査 監事
 都道府県が団体加入していない場合は、個人加入出来る。

H22,9,5 ホテルノースシティ

平成23年度 定期代議員会(58加盟団体 5,207名)
 ・出席代議員43名(うち委任状21名)
 ・次年度集いは、石狩スキー連盟が主管
 ・規約改正
 理事定数 後志・道東の<理事1名減>
 慶弔規定第2条
 <関係団体役員、各加盟団体会長>を挿入
 表彰規定第1条1 <各加盟団体に>を挿入
 ・予算 一般会計(実質)5,235,714円
 特別会計(実質)4,553,702円
 (年度始め財源不足のため、特別会計から200万円を繰り出し・繰り入れ)

同上 加盟団体会長会議 H22,9,5 ホテルノースシティ

・「役員の高齢化に伴う各加盟団体の役員選考方法」について情報交換

H22,10,1 シュプール第38号

・巻頭エッセイ「アマチュアスポーツの発展を願って」会長 坂井 敏夫
 ・NEWS「伊藤会長キング オラフ トロフィを受賞」
 ・主張・研究・検証 3本
 ・地区紹介 3本

- ・特集「北海道スキー連盟認定指導員要請講習検定会」
- ・随想 15本
- ・北海道スキー指導者協会の歩み
- ・第23回北海道スキー指導者協会の集い・2010上富良野大会
- ・事務局だより

H23,3,10 S.I.J. カップ蔵王大会

(H23,4,3開催予定)震災の為中止連絡

H23,7,2 ホテルシャトレゼ

第24回 北海道スキー指導者協会の集い

- ・2011石狩大会(参加者100名)
- ・講演「私とスキー～元気の出るスキーを目指して」
S.A.J.ナショナルデモンストレーター 井山敬介

H23,7,9 ホテルルポール麹町

平成24年度 日本スキー指導者協会総会

- ・S.I.J.カップ蔵王大会は、3月11日の震災により中止。
- ・インタースキーサンアントン大会公式視察団18名参加
- ・決算額 1,666,708円
- ・次回S.I.J.カップは八方尾根スキー場(24,4,8)にて開催予定
- ・役員改選(本協会分)
顧問:坂井敏夫,毛利修三 副会長:坂井和夫
理事:藤島勝雄
代表委員:三浦光男

H23,8,28ホテルノースシティ

平成24年度 定期代議員会(58加盟団体 5,215名)

- ・出席代議員43名(うち委任状21名)
- ・次年度集いは、小樽スキー指導員会主管で本協会60周年記念事業と併催
- ・規約改正
事業年度を9月1日 8月1日に変更
「規約施行に関する細則」の文章整理
- ・予算 一般会計(実質)4,859,824円
特別会計(実質)4,503,376円
(年度始め財源不足のため、特別会計から200万円を繰り出し・繰り入れ)
- ・役員改選
名誉会長 坂井敏夫
顧問 毛利修三,小林俊勝,中村啓二郎
会長 坂井和夫
副会長 坂口一弘,加藤英二,藤島勝雄,齋藤信義
監事 小栗 宏,遠藤 滋
特任理事 吉田英一
理事長 三浦光男
副理事長 西田 孝

専門部	部長	副部長	部 員
総務	佐藤秀志	古川英雄 安田豊重	杉山重之,登山一成,高木昌敏,早川志津雄, 大山忠嗣,前川廣明,松山幸博
事業	玉田 進	齊藤 悟	井上光男,輪島祥司,高岡正治,飯塚淳岡 島 謙俊,駒形武志,西出博美,野村芳昭
広報	中田 章	山田和広	櫻 満雄,岩瀬 均,宮本義夫,中村昇太, 角 秀,山口明久,鍛冶沢敏

同上 加盟団体会長会議 H23,8,28ホテルノースシティ

- ・各加盟団体の「特色ある行事」について意見交換

<あとがき> -----

4回に亘って掲載した「北海道スキー指導者協会の歩み」は一応終了します。一応と言いますのは、本協会が昭和27年創立してから来年で60周年を迎えます。その創立60周年記念事業を計画中です。

その事業の一環として発刊予定の「北海道スキー指導者協会60年史」を以って、昭和14年、五色温泉での「指導者養成講習会」から書き起こした、「北海道スキー指導者協会の歩み」の私の役目は終了させていただきます。長い間お付き合いいただきまして有難うございました。

(藤島)

<参考資料> -----

- ・北海道スキー指導者協会機関誌
シュプール第27号～第38号
- ・栗林薫著「北海道一般スキー八十年の歩み」
(H3,8,1発行)
- ・柴田信一先生遺稿集(H8,1,15発行)

**【岩手県】岩手県スキー指導員会
東日本大震災と「これから」**

事務局 石川 明

未曾有の大震災から6カ月が過ぎた。今年の1年は、これまでになかった自然災害の年ではないかと思われま

す。東北地方各地では、昨年末から1月にかけての大雪で、多くの方が屋根の雪下ろし事故で亡くなり、また山の木々たちも大きな被害を受け、無残な姿が方々で見られました。

そして3月に、日本では人類がこれほどまでに叩きのめされたことがなかった、言葉ではいいようのない、あまりにも深い被害を受ける災害が発生し、この衝撃的な状況と悲惨さは世界中に伝わりました。

当岩手では、会員の中にただ一人津波で亡くなられた方がおり、皆様とともに心からご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。そして、家屋の全半壊や床上浸水などの被害を受けられた会員も多く、一時も早い復興への支援が必要となっております。

今は、国を挙げての復興支援や日本各地のボランティアの皆さんによって復旧作業が進められておりますが、被災に負けてばかりはられないという意気込みと取り組みも各地域でひろがって

ます。

自然災害の特徴的なものに台風がありますが、9月上旬の台風12号では死者48人、行方不明者56人の大被害をもたらしました。

台風は、海面水温度が約28度以上になると発生するので、地球温暖化現象は台風の発生と発達を促し日本各地に災害をもたらす大きな要因と考えられます。私たちは、この「地球温暖化」を止める(遅らせる)ことによって、これからも山々の雪景色やスキーを楽しむことができ、そして災害を防ぐということにもつながりますので、未来に向けて、いつでもCO₂削減の意識を持ち続けることが大切だと存じます。

岩手県スキー指導員会では、東日本大震災で被災した沿岸7市町村のスキー協会仲間に、支援する趣旨で、全日本スキー指導者協会からいただいたお見舞金に当会予算から若干上積みした一時金を差し上げるほか、指導員会費の納入免除などで対応してまいります。被災した仲間とまた「雪上で逢おう」を合言葉に復興に取り組んでいくことを明るく、そして力強く、宣言します。



写真は大槌町役場前

【山形県】山形県スキー指導員会

山形県指導者協会 鈴木 勲重

2011 - 2012シーズン 山形県スキー連盟教育本部行事カレンダー

年月	日 程	行事内容	場 所
2011年 10月	10/29(土) 10/30(日)	スキー傷害救急法講習会 指導者養成講習会(理論)	市スポーツ会館 市スポーツ会館
11月	11/5(土) - 6(日) 11/11(金) - 13(日)	スキー学校長及び主任会議 日赤救急法講習会検定会	シェーネスハイムカム口 市スポーツ会館
12月	12/16(金) 12/16(金) - 18(日) 12/17(土) - 18(日) 12/17(土) 12/17(土) - 18(日)	県技術員研修会 山形県研修会、A/B/C級クリニック パト隊長会議、養成講習会、研修会 パト技術員研修会 S B研修会、養成講座	蔵王温泉スキー場 蔵王温泉スキー場 蔵王温泉スキー場 蔵王温泉スキー場 蔵王温泉スキー場
2012年 1月	1/11(水) 1/15(日) - 18(水) 1/27(金) - 29(日) 2/4(土) - 5(日)	S B強化 山形県研修会、A/B/C級クリニック 山形県スキー技術選手権 全日本S B技術選手権	泉ヶ岳 韓国/ヨンピョン 米沢スキー場宮城/泉ヶ岳スキー場
2月	2/5(日) 2/11(土) - 12(日) 2/22(水) - 24(金) 2/25(土) - 26(日) 2/25(土) - 26(日)	ジュニアスキー技術選手権 指導員受験者講習 スキー強化合宿 S B準指導員検定会 準指導員受験者講習	米沢スキー場 蔵王温泉スキー場 八方尾根 湯殿山 ASAHI自然観
3月	3/2(金) - 48日) 3/20(火) 3/31(木)	準指導員検定会 B/C級検定員検定会 スキー学校長及び主任会議	ASAHI自然観 蔵王温泉スキー場 市スポーツ会館

5月下旬(月山) S B強化合宿

【宮城県】宮城県スキー指導員会

事務局 萩野 元彦

本指導員会は、宮城県スキー連盟と連携しながら指導員の育成と資質の向上並びに親睦の輪を図っております。また、近隣のスキー指導員会との交流にも努めております。平成24年度事業計画をお知らせ致します。

平成24年度 事業計画

H23.8.20

No	年 月 日	事 業 名	場 所	備 考
1	H23.8.20(土)	総 会	ホテル白萩	第1回役員会実施
2	H23.8.20(土)	交 流 会	ホテル白萩	
3	H23.12.(土)	講 演 会	蔵王町ございんホール	未 定
4	H24.2	海外スキー研修	実施しない	
5	H24.2.()	スキー・ホート準指 合格者入会受付	スキー: ホート:	
6	H24.5.()	日 指 幹 事 会	東 京	会長参加予定
7	H24.6.()	第 2 回 役 員 会	野村コミュニティセンター	
8	H24.7.()	県連ゴルフ大会協賛	未 定	仙塩地区担当
9	H24.7.()	日 指 総 会	東 京	会長参加

各種支援・協賛

- 1 東北ブロック研修会(プロ技術員等)参加者への支援
- 2 仙北・仙塩・仙南ブロックへの講習会支援
- 3 正指導員受験者への支援
- 4 日指ゴルフ大会支援・・・平成23年10月8・9日 場所:那形街サカトリ
- 5 東北マスターズ大会支援(本県開催時)
- 6 近県指導員会との交流支援



【埼玉県】埼玉県スキー指導員会

東日本大震災により被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

H23事業報告とH24事業計画

埼玉県スキー指導員会は、県スキー連盟教育本部の中に組織され、17名の役員で構成され活動しています。

H23シーズン(H22/9-H23/8)の主な事業は、表のとおりで、予算額は、800,000円でした。

また、年間10回程度の幹事会を開催し、事業内容などを検討しています。

開催日	行事名	会場	備考
H22 9月20日	総会	パストラルかぞ	
H23 3月12日	教育本部スキー競技会及び 新人歓迎会	万座温泉スキー場	震災のため中止
7月7日	教育本部懇親ゴルフコンペ	下仁田カントリークラブ	
8月6日	懇親スポーツ大会	八丁湖	中止

3月11日(金)から13日(日)までの期間で万座温泉スキー場において計画されていた教育本部合同行事ですが、11日の東日本大震災により行事が途中で中止となりました。12日に予定していた競技会及び歓迎会についても中止となりました。

7月7日に下仁田カントリークラブで開催しました教育本部懇親ゴルフコンペでは、スキー場、宿舍会等の関係者にもご参加を戴きまして、総勢53名のコンペとなりました。



次は、教育本部行事の報告です。H22年11月7日(日)にS.A.J.指導者研修会の理論研修が東松山市民文化センターにおいて開催されました。また、12月10日(金)より、群馬県鹿沢スノーエリアにおいて実技研修が開催されました。この実技研修会は埼玉県スキー連盟の指導員が金曜～土曜または、日曜～月曜の日程に別れて参加をするもので、技術指導の確認と研修を行いました。

H24事業計画 (H23/9 - H24/8)

H24シーズンの指導員会行事としては、5月26日(土)に懇親スポーツ大会としてノルディック・ウォークを計画しています。

ノルディック・ウォークとは、2本のポールを持ってクロスカントリースキーのように行う

ウォーキングです。北欧フィンランドが発祥の地でクロスカントリースキーのオフトレとして紹介されています。また、7月5日(木)には、下仁田カントリークラブにおいて教育本部懇親ゴルフコンペを計画しています。

【千葉県】千葉県スキー指導員会

広報担当 川島みちを

平成24年度も千葉県スキー指導員会は、佐藤会長のリーダーシップの下、各行事のより一層の充実を図るため、各部の幹事は今まで以上に汗を流していきます。

平成23年度行事報告

1. 会報誌わかしお42号の発行	H.22年10月14日
2. 38回総会	H.22年11月14日 フローラ西船橋にて開催。 総会終了後講演会 演題 指導員に期待するもの、「一般スキーヤーとの接点をさぐる」 元S.A.J.デモの竹鼻建先生 講演終了後懇親会。
3. 第6回ステップアップ講習会	H.23年1月29日～30日 長野県 小海リエックス・スキーバレー 元S.A.J.デモ本間尚先生他
4. 準指導員検定会役員派遣	H.23年2月25日～27日 会津高原高畑スキー場で開催。
5. 指導員バンクより、指導員を派遣	上越国際スキー学校、会津高杖スキー学校、ヨマセ海和スキー学校、猪苗代スキー学校。
6. 第10回親睦ゴルフ大会	H.23年8月25 日習志野CC・空港コース
7. 尾瀬トレッキング	H.23年7月30日～31日は 集中豪雨のため急遽中止。

平成24年度行事予定

1. 会報誌わかしお43号発行	H.23年10月予定
2. 第39回総会	H.23年11月12日 講演、新入会員歓迎懇親会予定。
3. 第7回ステップアップ講習会	H.24年1月28日～29日 小海リエックス・スキーバレー 講師元S.A.J.デモ本間尚先生他を予定
4. 準指導員検定会役員派遣	H.24年度準指導員検定会に 役員を2名派遣予定。
5. 指導員バンクより指導員を派遣	上越国際スキー学校、会津高杖スキー学校、ヨマセ海和スキー学校、猪苗代スキー学校 派遣予定。
6. 第11回親睦ゴルフ大会	開催予定。
7. 尾瀬トレッキング	H.24年7月26日～27日 前回中止のため、再度実施。

【神奈川県】神奈川県スキー指導員会

神奈川県スキー指導員会 会長 大山 重彦

新生指導員会25年目の小さな節目の年、新しい会長として就任いたしました。

今後とも、指導員会に対しまして更なる暖かいご支援をお願いいたします。

特に神奈川県スキー連盟さんには一方ならぬご協力を賜っておりますこと、書面をお借りして深く感謝申し上げます。

現在、指導員会では、いくつかの課題を抱えておりますが、役員一同、焦らず無理せず改善していく所存ですので、今後展開されます指導員会運営の動向を厳しく見守っていただき、ご助言ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

ご存じのように当会の目的は、 会員相互の意志の疎通 親睦 情報の伝達・交換 会員の資質向上 の4本柱で成り立っております。

については、各行事やホームページ上の会話に該当するものの、アンケートの実施等、もっと深く会員のニーズを把握すること。 については、行事内の懇親会、ゴルフに該当するものの、ゴルフ以外の場を提供すること。 については と にも関わってきますが、新しい技術論の提供・トップデモによる実技講習等、具体的な手段で提供すること。

以上、これからの方向性について記述いたしました。 何といっても、その前提となるのが会員数の確保（会費の徴収・新会員の勧誘）です。各協会やクラブのご協力なくしては、なかなか解決できない問題と考えておりますので、ご協力の程、心底よりお願い申し上げます。更に、その基盤は「魅力ある指導員会」の確立と考えております。会員の皆様にとって魅力あるとは何かを初心にかえて検討を重ねていきたいと考えております。

神奈川県スキー指導員会 2011-2012年行事要項

行事	行事名	期 日
1.	第83回親睦ゴルフコンペ(秋季大会)	H23.10/20
2.	奥志賀高原スキルアップセミナー	H23.12/10-11
3.	エンジョイスキー in 小海 (1)	H24.1/9-11
4.	片品 スキーと花咲温泉ツアー	H24.1/29-1/31
5.	第31回オール神奈川スキーヤーズ大会	H24.2/4-5
6.	ハンターマウンテン塩原と温泉の旅 ()	H24.2/19-21
7.	エンジョイスキー in 小海 (2)	H24.3/1-3
8.	ハンターマウンテン塩原と温泉の旅 ()	H24.3/17-19
9.	第28回指導員会フェスティバル (財)神奈川県スキー連盟教育本部車山 行事 / 共催	H24.3/24-25
10.	第84回親睦ゴルフコンペ(春季大会)	H24.5/24
SV1	ジュニアスキー教室(スノーヴァ新横浜)	毎月第4土曜日

SV1:スノーヴァ新横浜ジュニア育成行事

詳細は神奈川県スキー指導員会のホームページ URL <http://sik.arts-k.com>

【東京都】東京都スキー指導員会

幹事長 和田 守義

2012年度 復興の年

2011年3月、東日本、東北地方は未曾有とい
ってよいほどの大震災に見舞われました。罹災さ
れた方には、心よりお見舞い申し上げます。

また、スキー場やその周辺の被害も大きいものと
聞いております。シーズン終盤でのこの震災で、そ
の後予定されていた東京都の関連の行事は全て中止
となり、ともすれば気持ちが落ち込む日々を過ごすこ
とになりました。しかし、こんな時だからこそスキー
ーを通じて知り合った仲間の絆を強くし、復興に向

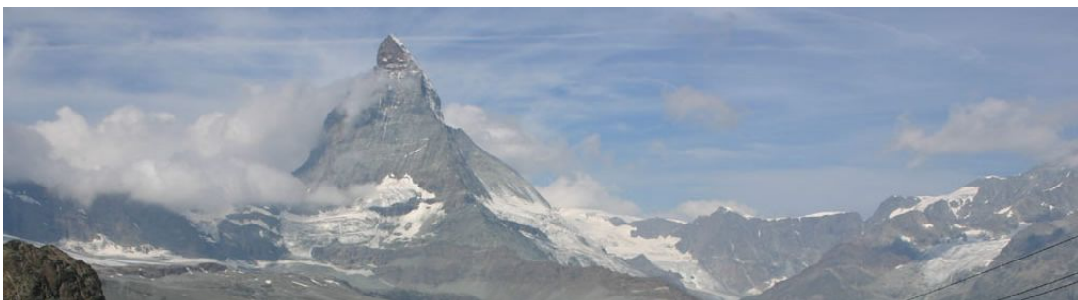
けて小さなことからでも私達ができることを着実に
実行に移していきたいと思えます。まだまだ復興と
いうには程遠いのが現状だと思いますが、スキーを
通して元気を取り戻し、明るい笑顔であふれるよう
なシーズンにしたいと思い、企画に力が入りまし
た。

今年度も、各事業の実施にあたりましては、関係
方面の皆様の絶大なるご指導とご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

平成24年度行事要項

	事業名	実施時期	実施場所	講師等
1	懇親ゴルフ大会	H23.9.15	都CC	ストックをクラブに持ち替えて技を競う親睦の会
2	24年度 団結式	H23.10.22 ~ 10.23	白馬五竜スキー場	今シーズンインも事故なく有意義なシーズンになり ますようと祈り、一段の結束を強める
3	スキー講座	H23.11.10(木)	なかのZERO	SAT教育本部専門員による理論講座
4	指導者研修会時の 親睦会	H23.12.9(金)	北海道朝里川スキー場 小樽「青塚食堂」	SAT指導者研修会朝里会場において広く指導員同 士の懇親を図る夕食会
5	準指検定()支援	H24.1.8(日)	菅平高原スキー場	昨年延期になり今年1月に行う準指検定会に温かい 飲物を用意して受験者をサポート
6	準指合格のための 特別研究会()	H23.12.23 ~ 12.25	菅平高原スキー場	SAT教育本部専門員による準指合格のための単位別 トレーニング
7	テクニカル・クラウン合格 のための特別研究会	H24.1.28 ~ 1.29	菅平高原スキー場	主にテクニカル、クラウンを目指す方を対象に より高い目標へチャレンジするトレーニング
8	プライズテスト	H24.2.4 ~ 2.5 予定	菅平高原スキー場	テクニカル、クラウンのプライズテストを行う
9	準指合格のための 特別研究会()	H24.2.10 ~ 2.12	菅平高原スキー場	SAT教育本部専門員による準指合格のための単位別 トレーニング
10	指導員会複合大会 31回フェスティバル	H24.2.25 ~ 2.26	菅平高原スキー場	基礎系の技術選手権と回転及び大回転競技の複合大 会
11	都民大会、クラブ対抗 行事支援	H24.3.3 ~ 3.4	菅平高原スキー場	温かい飲物を用意して参加選手の皆さんが日頃の練 習の成果を十分に発揮できますようサポート
12	準指検定()支援	H24.3.10(土)	菅平高原スキー場	準指検定に受検する方々に温かい飲物等を準備して リラックスして受検できるようサポート
13	指導員会 テクニックキャンプ	H24.3.2 ~ 3.4 予定	白馬五竜スキー場	講師にリッチーベルガーを迎えエレガントなスキー テクニックを学ぶ
14	指導者研修会S会場 SAT委託事業	H24.3.22 ~ 3.30	イタリア ドロミテ	コルチナタンツェツォをベースに広大なドロミテス キーエリアでイタリアスキーを学ぶ
15	指導員、準指導員合格者 歓迎会	H24.5.	薬業健保会館	新しく指導員、準指導員に合格した方々と喜びを共 にする

東京都スキー指導員会ホームページ <http://www.ski-instructors-tokyo.jp/>



(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会
平成23年度 第2回理事会 議事録

日 時 平成23年5月28日(土) 11:00~14:00
場 所 スクワール麹町

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-6 電話 03-3234-8739

- 出席者 (名簿順敬称略)
- 名誉役員 菅 秀文 林 権一 片岡 春夫
 会 長 坂本祐之輔
 副 会 長 半沢 進 綱川 千夫 阿部 雄三 大澤 佑吉
 理 事 吉田 勇夫 鈴木 勲重 石塚 光男 佐藤 昭藏
 新井 臣一 山崎 一正 水島 秀夫 藤木 昇
 特別理事 増田 千春
 委 任 坂井 敏夫 渡辺 忍 藤島 勝雄 古賀 澄夫
 小笠原 健一 榎本 建司
 出席監事 長澤 光雄
 顧問弁護士 菅原 哲朗
 事務局 藤木 昇 高橋イキエ 井駒 利一 関根 紀光
 進行 水島理事長
 開会の辞 半沢副会長
 会長挨拶 坂本祐之輔会長

震災に対するご冥福とお見舞いを申し上げます。全日本スキー連盟を中心として義援金650万円を集めることができました。また、6万点の物資も集められ被災地に届けられた。菅名誉会長、増田特別理事等の出席及び会議開催へのお礼。事業実施についてこれからも皆様の支援を賜りたい。活動報告等により水島理事長、事務局へのお礼。

名誉会長挨拶 菅名誉会長
 パプアニューギニアより帰国。増田特別理事についてお礼。全日本スキー連盟も正常な運営になるように願う。行事運営について理事長を中心としてよろしくお願ひしたい。

- 議長 坂本祐之輔会長
 書記選出 事務局
 議事録署名人選出 石塚光男理事 新井臣一理事
 議題

(1)経過報告 水島理事長
 別紙資料により報告説明：東日本大震災によりスキー界に大きな影響があった。事業面については、山形大会を企画したがご期待にそえなくて申し訳なく思う。ゴルフコンペについては、盛大に開催することができた。機関誌「INSTRUCTOR」については、編集内容の工夫をしていきたい。「みんなで行こうS.A.J.スキー大学」の参加報告。各事業へ協賛及び参加頂いたことへのお礼。

(2)S.A.J.報告 増田特別理事
 別紙資料により説明：平成23年度会員登録状況については自分の都道府県の数字を確認願いたい。
 有資格者数について、20年度のときは約43,000人であるが喪失者数が14,000人にのぼっている。喪失者とは、会費納入し登録しているが研修会欠席者である。喪失者が復帰したい旨の申出が多く、停止になっている方の救済はしたが多年にわたり喪失している方の救済は検討している。

継続登録していない指導員は30,000人いると見込まれる。指導員受検者数については、また減少傾向にある。認定指導員についての制度を凍結したいと考えている。認定指導員は海外からのスキーヤー、18歳以下の方、50歳以上の方の資格取得を目的に設置したが、免除の規定によりバッジテストの検定がぐらついてしまっている。1級受験者が減ってしまった。プライズテストからの指導者検定の免除も改める方向である。検定制度をスリムしていきたい。

(3)平成23年度事業報告及び収支決算報告
 菅名誉会長：説明は理事長がやるべきではないのか
 坂本会長：意見として聞いておく
 別紙資料により説明
 事業報告大澤副会長 決算報告藤木事務局長
 坂本会長：平成24年度事業計画と収支予算と関連があるので一括審議とする。

(4)審議事項
 平成24年度事業計画と収支予算について
 別紙資料により説明
 事業計画(案)大澤副会長 収支予算(案)藤木事務局長
 質疑

吉田理事：蔵王でのフェスティバルについて準備費用が10万円程かかったので検討いただきたい。
 鈴木理事：準備資金についてはあらかじめ予算を考えていただきたい。
 大澤副会長：開催した中で準備資金を捻出していたが、今回震災のため中止となってしまった。
 坂本会長：来年の大会とかかった費用をどうするか2点について検討
 林 顧問：かかった費用は繰越してでも支払うべきである。行事の集客についても再検討願いたい。
 鈴木理事：東北で大会を開催するには無理があるので関東甲信越近郊で検討してもらいたい。
 阿部副会長：かかった費用については会として支払うべきと思う。集める予定の義援金のなかから捻出してはどうか。
 菅名誉会長：S.I.J.大会は今後何年もたやさないでやって欲しい。白馬で開催してはどうか。運営費が足りなければ賛助する。
 坂本会長：総会のときに集める義援金の中から捻出することでどうか。役員は5,000円程度集める。予算案の処理については事務局で検討する。

(暫時休憩)
 大会については、八方という方向で事務局により総会までに調整。
 佐藤理事：認定指導員と生涯スキーリーダーとの関係はどうか。
 増田特別理事：ステージ4について準備不足の部分もある。認定指導員については廃止する訳ではない。名前をかえるとか、地方の資格にしていくか検討している。
 平成23年度事業報告及び収支決算報告及び平成24年度事業計画と収支予算について原案のとおり承認
 その他

菅原顧問弁護士
 現在日本オリンピック委員会と日本体育協会は公益法人となった。スポーツ基本法について、日本弁護士連合会ではスポーツ基本法に関する意見書を作成し広めている。スポーツ基本法は制定される方向。スポーツ庁の設置については震災の影響のため明確ではない。

(5)提案事項 水島理事長
 総会に向けて
 平成23年7月9日(土)10:30~ スクワール麹町
 各県提出書類による案件
 4月11日送付の役員改選に関する書類は総会までに提出する。
 役員改選について
 7月9日に規約により手続きを進める。

(6)その他
 水島理事長：義援金については総会のときに集める。
 坂本会長：義援金は強制ではなく役員5,000円程度とし、集めた中から大会準備資金に充てる旨の確認。
 吉田理事：震災について支援物資等のお礼。
 綱川副会長：会議日程の決定方法について検討いただきたい。
 鈴木理事：故S.A.J.青木副会長の弔意についてはどうだったのか。
 水島理事長：会としては会長名で弔電をうった。
 閉会の辞 鈴木理事

以上の議事録を証するため下記に署名する。
 平成23年6月16日

議 長 坂本祐之輔 印
 議事録署名人 石塚 光男 印
 議事録署名人 新井 臣一 印

(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会**平成24年度 第1回理事会 議事録**

日時 平成23年7月9日(土) 12:00~12:30
場所 スクワール麹町 〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-6
電話 03-3234-8739

出席者 (名簿順敬称略)

名誉役員 菅 秀文 林 権一 片岡 春夫
会長 坂本祐之輔
副会長 半沢 進 渡辺 忍 阿部 雄三 大澤 佑吉
特別理事 増田 千春
理事 藤島 勝雄 吉田 勇夫 鈴木 勲重 佐藤 昭藏
新井 臣一 山崎 一正 水島 秀夫 藤木 昇
委任 坂井 敏夫 綱川 千夫 古賀 澄夫 石塚 光男
小笠原 健一 長澤 光雄

出席監事 榎本 建司

顧問弁護士 菅原 哲明

事務局 藤木 昇 高橋イキエ 井駒 利一 関根 紀光
進行 水島理事長

開会の辞 阿部副会長

会長挨拶 坂本祐之輔会長

役員の出席及び会議開催へのお礼。顧問荒井哲夫先生が、逝去された。私たちはスキー人として東北地方の発展、さらには日本のスポーツ発展にどういったことが出来るのか考えて歩いていく。皆さまには、当会の発展のためにご尽力を戴きたい。

議長 坂本祐之輔会長

書記選出 事務局

議事録署名人選出 藤島勝雄理事 新井臣一理事

平成23年度概況報告

(1)一般報告 水島理事長

別紙資料により報告説明：総会の席で詳細を報告。

(2)S.A.J.報告 増田特別理事

別紙資料により説明：前回理事会で報告したときから新しくなった資料を差し替えて持ってきた。内容については大会・研修会関係と直近の登録者数を資料にしてある。詳細は、総会のときに説明したい。

(3)会議、事業及び収支決算報告 水島理事長

別紙資料により報告説明：前回の理事会で説明済みであるので総会で報告する。

藤木事務局長：平成23年度第2回理事会以降について追加説明。

(4)監査報告 榎本監事

正確に処理されている

議事

(1)平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)
水島理事長・藤木事務局長

別紙資料により説明

第18回親睦ゴルフ大会

平成23年10月8~9日に日程変更

第13回S.I.J.カップフェスティバル

平成24年4月7日~8日に日程変更

(2)本部会計予算(案)

予算額 5,803,137円

坂本会長：質問がないのでこの案で総会にかけることの確認。

(3)規約改正について

規約第17条4項に「次長を代表委員とする」を追加訂正したいがどうか。

藤島理事：事務局次長を代表委員にするのはどうか。

坂本会長：追加訂正はしないでそのままとする。

(暫時休憩)

(4)役員改選について：渡辺副会長

役員改選について会長職は、別室において各ブロック理事による会議を行い推挙し、理事会、総会に諮る。

藤木事務局長より別室の会議報告がなされ、会長は坂本祐之輔氏が推挙された。副会長、理事ほか役員については、整理し総会に諮る。

渡辺副会長：千葉県スキー連盟50周年記念式典についてのお礼。

(5)会報インストラクター27号原稿依頼について

水島理事長

別紙のとおりお願いしたい。

書記解任

議長解任

藤島理事：会議の段取りが悪い。役員改選がメイン議題であると思うが、もう少ししっかりやってもらいたい。

坂本会長：理事会の議事は以上であります。ご指摘戴いた点につき、スムーズな理事会の運営をかんがえていきたい。

閉会の辞 半沢副会長

以上の議事録を証するため下記に署名する。

平成23年8月2日

議長 坂本祐之輔 印

議事録署名人 藤島 勝雄 印

議事録署名人 新井 臣一 印

日本スキー指導者協会 理事会、総会・懇親会 写真



(財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

平成24年度総会議事録

日 時 平成23年7月9日(土) 12:00~12:30
場 所 スクワール麹町 〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-6
電話 03-3234-8739

出席者 (名簿順敬称略)
名誉役員 菅 秀文 林 権一 片岡 春夫 浦辻 直
会 長 坂本祐之輔
副 会 長 半沢 進 渡辺 忍 阿部 雄三 大澤 佑吉
特別理事 増田 千春
理 事 藤島 勝雄 吉田 勇夫 鈴木 勲重 佐藤 昭藏
新井 臣一 山崎 一正 水島 秀夫 藤木 昇
代表委員 庄司 高士 和田 守義
委 任 坂井 敏夫 綱川 千夫 古賀 澄夫 石塚 光男
小笠原 健一 長澤 光雄

出席監事 榎本 建司
顧問弁護士 菅原 哲朗
事務局 藤木 昇 高橋イキエ 井駒 利一 関根 紀光
進行 水島理事長

開会の辞 阿部副会長
会長挨拶 坂本祐之輔会長

役員の出席及び会議開催へのお礼。東京都連長谷川副会長をはじめとする役員の皆様、菅原顧問弁護士も出席されている。被災地の復興を祈っている。S.A.J.伊藤会長の話についてメダルを奪回していきたい。韓国ビョンチャンでオリンピック開催が決まった訳であるが、F I Sの中で理事を確保できるかが問題である。私たちは、スキーの普及振興を都道府県ではかっていく。ご意見を戴き当会の発展のためにご尽力を戴きたい。

議長 坂本祐之輔会長
書記選出 事務局
議事録署名人選出 藤島勝雄理事 新井臣一理事

平成23年度概況報告

(1)一般報告 水島理事長

別紙資料により報告説明：ゴルフ大会、フェスティバル、インストラクター原稿について資料のとおりお願いしたい。表彰の説明については会長からお願いしたい。

坂本会長：

日本体育協会と日本オリンピック委員会が100周年を迎える表彰がある。S.A.J.理事に就任された方について表彰される。

水島理事長：

該当者は菅先生、片岡先生と把握している。

(2)S.A.J.報告 増田特別理事

別紙資料により説明：大会、検定会の参加者数については、減少しているが、下げ止まりである。会員登録者数について6月24日現在で指導員・準指導員は45,921人である。来シーズンは、スキーの検定会にボード検定も同時に開催される。ライセンスの停止・喪失について約46,000人のうち14,000人いる。またライセンスが現在ない会費未納者の復活の救済策について8月めに検討している。大震災、スポーツ基本計画、新法人というなかで規約について検討している。指導者相互の情報交換、資質向上に対して進めていきたい。

(3)会議、事業及び収支決算報告 水島理事長

別紙資料を参考にと説明

大沢副会長：

無資格スポーツ指導者とはどんなものか。認定指導員の動きはどうか。

増田特別理事：

無資格スポーツ指導者については、調べて連絡したい。認定指導員については地域指導員と名称を改め、準指導員受験資格をきった

(4)監査報告 榎本監事

正確に処理されている

議事

(1)平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)

水島理事長・藤木事務局長

別紙資料により説明

第18回親睦ゴルフ大会

平成23年10月8~9日開催 那須チサンカントリークラブ
会報第27号の発行

第11回みんなで行こうスキー大学

平成24年1月上旬開催 朝里川温泉スキー場

第13回S.I.J.カップフェスティバル

平成24年4月7日~8日 白馬八方尾根スキー場

(2)本部会計予算(案)

予算額 5,803,137円

賛意を問ひ承認を得る

(3)役員改選について 渡辺副会長

役員改選については、別室において各ブロック理事による会議をおこなった結果坂本会長が会長に推挙された。副会長、理事、代表委員について各ブロック、都道府県より選出されている部分について、会長推薦について藤木事務局長より発表して戴きたい。会長について承認を得る

藤木事務局長より新役員の読み上げ

副会長

ブロック推薦 坂井和夫 半沢 進 綱川千夫 渡辺 忍

会長推薦 山崎一正

理事

ブロック推薦 藤島勝雄 吉田勇夫 石塚光男 水島秀夫

会長推薦 鈴木勲重 阿部隆郎 小笠原健一 新井臣一

佐藤昭藏 和田守義

特別理事 増田千春

顧問弁護士 菅原哲朗

監事 榎本建司 巻坂伸次

代表委員 三浦光男 金井 久 庄司高士 芳賀 寛

榎本勝雄 宮津久男

名誉役員追加

顧問 坂井敏夫 阿部雄三 大澤佑吉

参与 長澤光雄

賛意を問ひ承認を得る

増田特別理事：

無資格スポーツ指導者については、日体協の資格を持っていて連盟の資格を持っていない方のことである。

菅原顧問弁護士：

スポーツ基本法について施行される見通しとなった。予算の裏付けができ、スポーツを行うための法律ができた。ガバマンズとコンプライアンスが競技団体として重要である。

坂本会長：

規約第17条の第3、第4条の事務局の任命については現行のとおりお願いしたい。

質問：

理事長、副理事長を理事会の互選で選出とあるが、いつやるのか坂本会長：

決まりしだい報告させて戴きたい。

閉会の辞

半沢副会長

以上の議事録を証するため下記に署名する。

平成23年8月2日

議 長 坂本祐之輔 印

議事録署名人 藤島 勝雄 印

議事録署名人 新井 臣一 印

平成 23 年度 事業別概況報告

	開催年月日	事業内容	会場
1	H 22年8月8日 参加総数52名	H 23年度第1回常任幹事会、総会、懇親会 役員事務局 29名 他22名	シーサイドホテル芝弥生
2	H 22年10月10日 ～12日 参加総数82名	第17回SIJ親睦ゴルフ大会 岩手県3、宮城県5、山形県4、福島県19、 栃木県6、埼玉県7、千葉県13、東京都12、 神奈川県13	那須チサンカントリー クラブ
3	H 22年10月1日	会報第26号 発行	17,000部
4	H 23年1月6日 ～10日 参加総数17名	第10回みんなで行こうSAJスキー大学	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
	H 23年1月15日 ～23日 SIJ参加者18名	インタースキー オーストリア・サンアントン大会 (フイコホレーション企画 公式視察団54名)	サンアントン
5	H 23年4月1～3日	第12回SIJフェスティバル in 蔵王 参加者少なく「ふれあい懇親会」に変更 しかし、3月11日の震災により中止	蔵王温泉スキー場 五感の湯つるや

平成 23 年度 決算報告書

1. 収入の部

(予算比減)

科目	予算額	決算額	内訳金額	予算比増減	摘要
繰越金	62,256	62,256		0	前年度より
年会費	797,500	783,000		14,500	
会議費	312,500	289,000		23,500	
事業費	1,135,250	532,400		602,850	
用品販売費	0	0		0	
雑収入	50	52		2	
合計	2,307,556	1,666,708		640,848	

2. 支出の部

(予算比減)

科目	予算額	決算額	内訳金額	予算比増減	摘要
会議費	460,000	408,746		51,254	
事業費	1,485,250	987,460		497,790	
用品加工費	0	0		0	
通信費	50,000	42,990		7,010	
事務費	50,000	34,320		15,680	
事務所借用料	20,000	20,000		0	
渉外費	50,000	19,855		30,145	慶弔(弔電、生花)
ホームページ費	60,000	60,000		0	
雑支出	10,000	0		10,000	
支出合計	2,185,250	1,573,371		611,879	
繰越金	122,306	93,337		28,969	
合計	2,307,556	1,666,708		640,848	

平成 24 年度 事業 計画

	開催年月日	事業内容	会場
1	H 23年10月8日(土) ～9(日)募集 80名	第18回SIJ親睦ゴルフ大会(秋季) 参加費3,000円、ゴルフレ-他10,000円	那須チサンCC 8日前夜祭 9日大会
2	H 23年10月 上旬	会報27号の発行 発行部数16,000部	
3	H 24年1月5日(木)～9日(月) 募集 20名	第11回みんなで行こうSAJスキー大学	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
4	H 24年4月7日(土)～8日(日) 募集 55名	第13回SIJカップフェスティバルin白馬 大会参加費3,000円	白馬八方尾根スキー場 本部：対岳館

平成 24 年度 本 会 計 予 算

1. 収入の部

科 目	予算額	前年予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	93,337	62,256	31,081	
年 会 費	4,454,500	797,500	3,657,000	
会 議 費	362,500	312,500	50,000	
事 業 費	892,750	1,135,250	242,500	
	655,250	655,250	0	親睦ゴルフ大会
	20,000	20,000	0	SAJスキー大学企画料
	0	100,000	100,000	2011インタ-スキ-総会ツア-企画料
	217,500	360,000	142,500	SIJカップフェスティバルin白馬
雑 収 入	50	50	0	銀行利息他
合 計	5,803,137	2,307,556	3,495,581	

2. 支出の部

科 目	予算額	前年予算額	増 減	摘 要
会 議 費	510,000	460,000	50,000	
事 業 費	1,342,750	1,485,250	142,500	
	535,250	585,250	50,000	親睦ゴルフ大会
	600,000	600,000	0	会報27号
	0	20,000	20,000	2011インタ-スキ-企画料
	0	0	0	SAJスキー-大学
	207,500	280,000	72,500	SIJカップフェスティバルin白馬
通 信 費	50,000	50,000	0	切手、葉書
事 務 費	50,000	50,000	0	印刷、コピー
事 務 所 借 用 料	20,000	20,000	0	
渉 外 費	50,000	50,000	0	
ホ-ム^ーシ- 費	60,000	60,000	0	
雑 支 出	10,000	10,000	0	
支 出 合 計	2,092,750	2,185,250	92,500	
未収金会費予備費	3,671,500	3,671,500	0	
予 備 費	38,887	122,306	83,419	
合 計	5,803,137	2,307,556	3,495,581	

第10回みんなで行こうスキー大学実施報告書

日程	A日程 平成23年1月6日(木)～10日(月)5日間 B日程 平成23年1月6日(木)～9日(日)4日間	旅行取扱(株)シティフェイス
会場	北海道朝里川温泉スキー場 (〒047-0154北海道小樽市朝里川温泉1-394TEL0134-54-0101)	
宿舎	朝里クラッセホテル (〒047-0154北海道小樽市朝里川温泉2丁目676TEL0134-52-3800)	
費用	羽田前日夜/当日朝発 B 47,800円/A 58,900円 航空運賃、宿泊代(3/4泊3/4朝食) 新千歳 朝里クラッセホテルは往復各自負担	
参加者	17名(A日程7名、B日程10名)	
日程		
1/06(木)	朝羽田 8:00発 JAL509新千歳空港着/電車/路線バス 朝里クラッセホテル11:30着 夕羽田18:30発 JAL541新千歳空港着/電車/タクシー 朝里クラッセホテル22:30着 航空機の出発到着時間は1例で個人の希望をなるべく取り入れて対応して貰っている。	
1/07(金)	8:00～8:30スキー大学受付 吹雪/曇 9:00開会式 9:30～15:00 講師によるデモ(新教程の緩斜面種目)の後、ナショナル/S.A.J.デモによる班別実技講習 15:30～17:30 講師と受講生による班別理論講習	
1/08(土)	晴/曇雪 9:30～15:00 午前/午後ナショナル/S.A.J.デモによる班別実技講習 15:30～17:00 市野S.A.J.専門委員による理論講習 18:00～19:30 講師と受講生全員による交流会	
1/09(日)	吹雪後戻 9:30～11:00 ナショナル/S.A.J.デモによる班別実技講習 11:00～11:30 B日程(3日コース)閉会式(悪天候による交通障害のため前倒し) 15:00～20:30 B日程朝里クラッセホテル発、JAL538羽田空港着他 以後はA日程(4日コース) 14:00～15:00 ナショナル/S.A.J.デモによる班別実技講習 15:30～16:30 我満コーディネータと千葉主任講師による理論講習	
1/10(月)	晴 9:30～11:30 ナショナル/S.A.J.デモによる班別実技講習 13:00～13:15 全員によるスキーセッション(約200名によるスキートレーン) 13:30～14:00 A日程(4日コース)閉会式 15:20～18:00 朝里クラッセホテル発 新千歳空港着 18:55 新千歳空港発JAL538他 20:30 羽田空港着	

概況

- 参加者は昨年より2名多く、千葉2名、東京6名、神奈川7名、長野1名、石川1名の17名。
- 午前開会式のため6日泊で、A日程の帰りは成人の日の連休のため10日の飛行機は満席だった。
- 今年の新参加者は去年の連休利用日程より25名少ない355名であった。
- 第一会場のスキー大学は和気あいあいとした雰囲気です。レピーターの参加者が多い。
- 今年は、講習初日に落下エネルギーを有効に使った、楽なスキーのタイトルでデモンストレータによる模範演技が行われ、今までの滑りとの違いを演技し、参加者には分かり易かったようだ。
- 今年も毎日講師が変わり、異なった教え方に接して新鮮な気持ちで講習に望めるし、人気のあるデモに教えてもらえる確率が高くなると好評だった。
- 今年も、連日の猛吹雪で、高速道路の閉鎖が続き、車の現地参加者は特に大変であった。それに伴い日程変更し、帰宅時間を早める等の対処となった。9日11:30からの講師によるデモンストレーションは、中止となった。
- 今年の料金は去年よりA日程では同額、B日程で900円高く、石川発の参加者も対応した。
- 今年も、S.I.J.参加者に相部屋を了解してもらい、1人での参加と各地からの参加を確実にし、飛行機と宿のみ確保する募集形態は、一番確実に参加できるツアー企画として良いものと思われる。



第17回S.I.J親睦ゴルフ大会実施報告書

- 1.前夜祭 那須チサンカントリークラブ栃木県那須郡那須町寺子乙677-28 0287-62-0840
 (敬称略)平成22年10月10日(日)18時より夕食兼懇親会 レストラン 司会 神奈川県 阿久津光代
- 1.開会のことば 理事 佐藤昭蔵
 - 2.会長挨拶 会長 坂本祐之輔
 - 3.地元挨拶 栃木県連会長 綱川千夫様、ハンターマウンテン塩原管理部長新井和夫様
 - 4.競技説明 理事長 水島秀夫
 - 5.協賛紹介 事務局長 藤木 昇
 - 6.乾杯 顧問 片岡春夫
 - 7.懇親カラオケ司会 副会長 大澤佑吉
各テーブル、地方より喉自慢を披露
 - 8.中締め 理事 鈴木勲重 20時00分

- 2.ゴルフ大会 那須チサンカントリークラブ 栃木県那須郡那須町寺子乙677-28 0287-62-0840
 平成22年10月11日(月=休) 集合7:20 スタート7:32 パーティー15:30~16:30

表彰式並びにパーティー(敬称略) 司会 神奈川県 阿久津光代

- 1.開会のことば 代表委員 安部英夫
- 2.会長挨拶 副会長 半沢進
- 3.ゴルフ場支配人挨拶 那須チサンカントリークラブ 支配人 村田悟様
- 4.成績発表/賞品授与 副会長 半沢進/副会長 大澤佑吉
- 5.優勝者挨拶 栃木県 新井和夫
- 6.閉会の辞 理事 山崎一正

前夜祭参加者54名、コンペ参加者数76名、新ペリア方式採用 パーティー等も含めた総参加者82名
 参加県 岩手県3、宮城県5、山形県4、福島県19、栃木県6、埼玉県7、千葉県13、東京都12、神奈川県13

順位	個人戦男子の部					個人戦女子の部					団体戦	
	氏名	県名	グロス	ハンデ	ネット	氏名	県名	グロス	ハンデ	ネット	県名	
1位	新井和夫	栃木県	90	20.4	69.6	宮沢貞子	千葉県	85	12.0	73.0	福島県	746.4
2位	高橋哲男	埼玉県	74	3.6	70.4	浅野恭子	福島県	95	20.4	74.6	埼玉・栃木県	759.6
3位	長澤光雄	千葉県	97	26.4	70.6	釜屋恵美子	埼玉県	93	68	76.2	岩手・山形・宮城県	768.6

ベストグロス賞			
部	氏名	県名	グロス
男子	山本達夫	東京都	73
女子	宮沢貞子	千葉県	85

シニア賞(75歳以上)					
順位	氏名	県名	グロス	ハンデ	ネット
1位	長澤光雄	千葉県	97	26.4	70.6
2位	田川清	神奈川	86	12.0	74.0
3位	有賀啓次	東京都	88	13.2	74.8

協賛会社 那須チサンカントリークラブ、ハンターマウンテン塩原、スキージャーナル、オグナほか みやま

(敬称略) ボーヤ、東京シスター津田、コトウ、日弘

- | | | |
|------------|-----------|--------------------|
| 日本スキー指導者協会 | 会長 坂本祐之輔 | 栃木県スキー連盟 会長 綱川千夫 |
| 千葉県スキー連盟 | 会長 渡辺忍 | 神奈川県スキー連盟 顧問 片岡春夫 |
| 東京都スキー指導員会 | 名誉会長 阿部雄三 | 岩手県スキー指導員会 会長 吉田勇夫 |
| 宮城県スキー指導員会 | 会長 半沢進 | 福島県スキー指導員会 会長 安部英夫 |
| 日本スキー指導者協会 | 監事 榎本建司 | 山形県スキー連盟 鈴木勲重 |

新年度最初の本行事、10日の前夜祭の夕食を兼ねた懇親会には、坂本会長の参加も戴き、カラオケを競い合い、福島県を除く8都県の会員の交流も深まった楽しいものとなりました。特にロッジのロビーに各県の人達が自然と集まった2次会では、大いに盛り上がり、宿泊付開催は各県の懇親に非常に良かったとの事でした。

翌11日の「体育の日」は日本晴れで、7時20分開会式、7時32分アウト/イン各10組で同時スタート、各組順調に全員ホールアウトしました。

表彰式並びにパーティーでは、上記各社より協賛支援を賜り全員に賞品を授与する事が出来ました。協賛各社にお礼を申し上げます。16時30分には表彰式も終わり、遠路岩手、宮城をはじめ各地に向け、帰路に着きました。

皆さんお疲れさまでした。

参加の皆様からは「ゴルフの組分けも希望通りとなり、懇親会、ロッジの2次会も懇親を深められ、楽しかった」との声を戴き、役員一同も安心致しました。



(財)全日本スキー連盟 日本スキー指導者協会規約

第1章 総 則

- (名 称)
第 1 条 この会は、(財)全日本スキー連盟 日本スキー指導者協会
(英文名 SKI INSTRUCTOR OF JAPAN、略称 S . I . J .) という。
- (事 務 所)
第 2 条 この会の事務所は東京都に置く。

第2章 目的および事業

- (目 的)
第 3 条 この会は、スキー指導者相互の情報交換をはかることにより、スキー界の活性化に寄与し、あわせてスキー指導者の資質の向上と社会的貢献をはかることを目的とする。
- (事 業)
第 4 条 この会は、前条の目的を達成するため次ぎの事業を行う。
(1) スキー指導者相互の情報交換と連携。
(2) (財)全日本スキー連盟への協力。
(3) 機関紙の発刊。
(4) その他この会の目的達成に必要な事業。

第3章 会 員

- (会 員)
第 5 条 この会の会員は、S . A . J . 加盟団体及びスキー指導者により構成する各都道府県の団体を会員とする。
ただし、団体が会員でない場合は個人を会員とすることができる。
- (賛 助 会 員)
第 6 条 この会の目的に賛同しその事業に協力する個人または団体を賛助会員とすることができる。
- (会 員 の 義 務)
第 7 条 会員は、この会の行う事業に積極的に協力し、または行事に参加するものとする。
2 . 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。
- (退 会)
第 8 条 会員が退会するときは、その理由を付し退会届を会長に提出しなければならない。

第4章 役 員

- 第 9 条 この会に次ぎの役員をおく。
会長 1 名、副会長若干名、理事若干名、特別理事若干名
監事 3 名以内
- (役員の選任)
第 1 0 条 前条の役員は、総会で選任する。
2 . 会長の選出は別に定める。
3 . 副会長は全国 7 ブロックより各 1 名を推挙する。
4 . 理事は全国 7 ブロックより各 1 名を推挙する。
5 . 特別理事は S . A . J . 教育本部理事または、それ相応の者を理事会で推挙する。
6 . 監事は、立候補により総会で選出する。
7 . 理事の中より理事長および副理事長を理事会の互選により選出する。
8 . 第 3 項、第 4 項の規程にかかわらず会長推薦の副会長および理事を若干名おくことができる。
- (役員の職務)
第 1 1 条 会長はこの会を代表し、この会の業務を総理する。
2 . 副会長は会長を補佐し、会長が事故ある場合及び必要に応じ職務を代行する。
3 . 理事長は、会長および副会長を補佐し、この会の業務を掌理する。
4 . 理事は、日常の業務を執行する。
- (監事の職務)
第 1 2 条 監事は会議に出席し意見をのべることができる。ただし議決に加わる事はできない。
2 . 監事は、次の各号に定める業務をおこなう。
(1) 財産の状況および整理の監査。
(2) 業務執行状況の監査。
3 . 監査の結果、必要があると認めるときは会長に対し総会の招集を要請することができる。
- (役員の任期)
第 1 3 条 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
2 . 役員はその任期満了後でも、後任者が選任されるまでは、その職務を遂行する。
3 . 補充または増員により選出された役員の任期は、現任者の残存期間とする。
- (役員の解任)
第 1 4 条 役員が次ぎの各号に該当したときは総会の議決を経て解任することができる。
(1) 心身の故障のため職務執行にたえられないと認められたとき。
(2) 職務上の義務違反、および役員にふさわしくない行為があったと認められたとき。

INSTRUCTOR No.27

(役員の報酬)

第 15 条 役員は、原則として無報酬とする。
ただし、その職務のため必要な費用について支給することができる。

(名誉役員)

第 16 条 この会に、名誉会長、名誉顧問、特別顧問、顧問、参与、会友をおくことができる。
2. 名誉会長はこの会の会長であった者を総会にはかり会長が委嘱する。
3. 名誉顧問はこの会の名誉会長であった者、および同等の功労のあった者を総会にはかり会長が委嘱する。
4. 特別顧問は、必要に応じ総会にはかり会長が委嘱する。
5. 顧問及び参与は、この会の発展に特に功労のあった者を総会にはかり会長が委嘱する。
6. 特別顧問、顧問は、特定事項について会長の諮問に応ずる。
7. 参与は、特定事項について理事会の諮問に応ずる。

(事務局)

第 17 条 この会の事務処理を行うために中央事務局を置く。
2. 中央事務局の構成は次ぎのとおりとする。
局長 1 名、次長 2 名以内、局員若干名。
3. 局長は会長が任命し、理事とする。
4. 次長及び局員は会長が任命する。
5. 局員は有給とすることができる。ただし、その報酬は理事会の議決を得て会長が定める。

第 5 章 会 計

(会計年度)

第 18 条 この会の会計年度は毎年 6 月 1 日より 5 月 31 日までとする。

(経費)

第 19 条 この会の運営に要する費用は次の各号を以ってあてる。

- (1) 年会費
- (2) 事業収入
- (3) 協賛金
- (4) 補助金
- (5) その他の収入

第 20 条 年会費は原則として都道府県会員の規模割りによるが実情によりブロック単位に算定し納入することができる。
なお、その算定方法は、個人会員とあわせ別に定める。

第 6 章 会 議

(会議の種類)

第 21 条 この会の会議は、総会、理事会、その他各種委員会とする。

(総会)

第 22 条 総会は、この会の最高の議決機関とする。

(総会の構成)

第 23 条 総会は、各都道府県からあらかじめ選出された代表委員、および役員で構成する。
2. 名誉役員に出席を要請し意見を求めることができる。

(総会の招集)

第 24 条 総会は、毎年 1 回会計年度の終了後 3 ヶ月以内に会長が招集する。
ただし、代表委員の 2 分の 1 以上から会議の目的事項を示し総会開催の請求があったときは 60 日以内に総会を招集しなければならない。

(総会の成立)

第 25 条 総会は、代表委員現在数の 2 分の 1 以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。ただし、委任状の提出があった場合は、出席したものと見なす。

(総会の議決)

第 26 条 総会の議決は、特別に定めた事項を除き出席代表委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

(総会の議長)

第 27 条 総会の議長は、会長もしくは会長の指名するものとする。

(総会の審議事項)

第 28 条 総会は次の事項を審議、議決する。
(1) 事業計画および収支予算に関する事項
(2) 事業報告および収支決算報告に関する事項
(3) 役員を選出、承認および解任
(4) 規約、規程の改廃
(5) 会員の加盟の承認および除名
(6) 会員からの提出議案
(7) 役員および会員の表彰
(8) その他必要と認める事項

(理事会)

第 29 条 理事会は、会長、副会長、理事、特別理事、監事をもって構成し会長が必要に応じ招集する。
2. 理事会の議長は、会長もしくは会長の指名するものとする。
3. 会長は、必要に応じ名誉役員に出席を要請し意見を求めることができる。
4. 理事会の成立及び議決は、総会の成立及び議決に準ずる。

(理事会の業務)

第 30 条 理事会は次の業務を処理する。
(1) 事業計画および予算の立案ならびに執行
(2) 事業報告および決算の処理
(3) 役員等の選考に関する事項

- (4) 規約、規程の立案
- (5) 会員拡大に関する事項
- (6) 会員からの提出議案の処理
- (7) 役員および会員の表彰者の推薦
- (8) その他、必要事項

(各種委員会)

- 第31条 この会に、事業遂行上必要と認める場合、各種委員会をおくことができる。
2. 各種委員会の設置および構成する委員の選出は理事会の議決による。
 3. 委員は会長が委嘱する。

(議事録)

- 第32条 総会および理事会の議事については次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 開会の日時および場所
 - (2) 会議に出席した構成員の氏名
 - (3) 委任状を提出した者の氏名
 - (4) 議決事項
 - (5) 議事の経過の要旨および発言者の発言要旨
2. 議事録には、議長およびあらかじめ選出された議事録署名人が署名しなければならない。
 3. 議事録は作成後すみやかに会議構成員に開示することとする。

第7章 付 則

(細 則)

- 第33条 この規約の施行上、必要な事項は別に細則に定めることができる。

(規約の改廃)

- 第34条 この規約の改廃は、総会において出席代表委員の3分の2以上の同意によらなければならない。

- 第35条 この規約は昭和58年10月30日より施行する。

昭和61年12月3日改正
 昭和62年08月23日改正
 昭和63年08月27日改正
 平成06年07月17日改正
 平成07年07月12日改正
 平成09年07月12日改正
 平成10年07月19日改正
 平成11年07月18日改正
 平成13年08月05日改正
 平成15年08月02日改正
 平成16年07月31日改正
 平成21年07月26日改正
 平成22年08月08日改正(全面)

 (財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会 運営細則

(会長の選出)

- 第1条 会長は、各ブロック選出理事による会議における推挙にもとづき、総会において選出する。

(総会への出席)

- 第2条 賛助会員、名誉会員、個人会員および都道府県会員に属する個人は総会に出席することができる。ただし、議決には加わらない。

(年会費)

- 第3条 会員の年会費は原則として別表に定めた金額とする。

(慶 弔)

- 第4条 役員等の慶弔については必要に応じその都度会長が決め執行する

付 則

- 第1条 この運営細則の改廃は理事会において議決し総会の承認を得なければならない。
- 第2条 この運営細則は、平成22年8月8日より施行する。

(財)全日本スキー連盟
日本スキー指導者協会 役員名簿 2011.6~2013.5

名誉会長	菅 秀文	東京都	会長	坂本祐之輔	
特別顧問	丸山庄司	北海道	副会長	坂井和夫	北海道
"	坂井敏夫	北海道	"	半沢進	北 北 (宮城県)
"	毛利修三	北海道	"	綱川千夫	東 北 (栃木県)
"	堀 恒也	山形県	"	渡辺忍	南 東 (千葉県)
"	岸 英三	群馬県	"	山崎一正	南 東 (東京都)
"	目崎武美	東京都	特別理事	増田千春	S.A.J.理事
"	阿部雄三	東京都	理事	藤島勝雄	北海道 (北海道)
"	福岡孝純	東京都	"	吉田勇夫	北 北 (岩手県)
"	杉崎壽三男	東京都	"	鈴木勸重	山 形 県
"	林 権一	東京都	"	阿部隆郎	福 島 県
"	片岡春夫	神奈川県	"	古賀澄夫	茨 城 県
"	大澤佑吉	神奈川県	"	石塚光男	茨 城 県 (栃木県)
参 与	宮本忠五郎	宮 城 県	"	小笠原健一	北 埼 関 玉 県
"	長澤光雄	千 葉 県	"	新井臣一	埼 玉 県
"	浦辻直	東 京 都	"	佐藤昭蔵	千 葉 県
顧問弁護士	菅原 哲朗	〒-スト法律事務所	"	和田守義	東 京 都
			"	水島秀夫	神 奈 川 県
			監 事	榎本建司	栃 木 県
			代表委員	榎本建司	千 葉 県
			"	三浦光男	北 海 道 県
			"	金井久	北 埼 玉 県
			"	庄司高士	千 葉 県
			"	芳賀寛	東 京 都
			"	榎本勝雄	神 奈 川 県
			"	小林賢	山 梨 県
			"	宮津久男	長 野 県

中央事務局

局長	藤木 昇	神奈川県
次長	高橋イキ工	東京都
"	水島三千夫	神奈川県
局 員	関根 紀光	埼玉県
	滝沢 誠	東京都
	井駒 利一	神奈川県

規約17条3項による理事

事務局だより

S.I.J.事務局は会長への報告や方針の打合せ、執行方法の決定や行事企画立案等のお手伝い、理事会や総会までの各種準備、総会決議事項の実行など、理事長の指示のもと、事務局の理事と東京近県の副会長、理事、代表委員を交え事務局会議を適宜開催しながら会全体の運営のお手伝いをしております。

総務機能として各県役員または指導員会宛の通知、会費納入のお願い、理事会と総会資料の作成と会議の手配、議事録の作成、スポンサー募集とお礼状の発送、慶弔に関する連絡と手配等を行っております。

特に会費の納入状況が芳しくないため、経費的にも運営が苦しい状況です。

広報としては会報の企画編集、寄稿依頼と手作り発行、執行内容のホームページへの掲載維持等です。ホームページは会報と共に全国のスキー指導者の連携と一体感をかもしだすために重要な要件と考えています。是非皆様の投稿やニュース寄稿、ご意見の提供をお願い致します。

事務局員は皆様と出会い、行事や会報によって会員の方々との連携を実感しながら、また楽しみながら仕事を進めております。更に喜びの多いS.I.J.として行きたくよろしくお願い申し上げます。

現在の事務局員の担当は下記のようになっています。

事務局長 藤木 昇 理事(神奈川)、事務局次長 総務担当 高橋イキエ(東京)

事務局次長 広報担当 水島三千夫(神奈川)

事務局員 関根 紀光(埼玉) 滝沢 誠(東京)、井駒 利一(神奈川)

S.I.J.のホームページ <http://sij.arts-k.com/> へ是非お越し下さい。

事務局日誌より

H22

- 7/ 2 規約等改正検討委員会開催(京橋区民会館)
- 8/ 8 平成23年度第1回常任理事会開催(シ-サイト ホテル芝弥生)
- 8/ 8 平成23年度総会開催(シ-サイト ホテル芝弥生)
- 10/ 1 会報26号発刊
- 10/11 第17回SIJ親睦ゴルフ大会 懇親会開催(那)
- 11/27 緊急拡大事務局会議開催(総評会館)
議題: 第12回SIJカップフェスティバル

H23

- 3/11 東日本大震災発生、名簿掲載東北役員(シ-サイトに)
- 3/14 震災のため第12回SIJカップフェスティバル(シ-サイトに)
- 5/28 平成23年度第2回理事会開催(スク)
- 7/ 9 平成24年度第1回理事会(スク)
- 7/ 9 平成24年度総会開催(スク)



会費納入のお願い

日本スキー指導者協会の運営は、全国各県の指導員会組織(SAJの各県連組織を含む)からの会費が基本になっております。皆様から頂く約80万円の年会費は全国の指導員への情報提供とコミュニケーションの場であるこの会報の発行とホームページの維持に殆んどが費やされています。

また滞納気味の県もあり当会の運営は財政的に非常に苦しい状況です。このような事情から誠に勝手ながら、本年度の会報発行に合わせ、会費未納の各県の指導員会事務所に請求書をお届けさせていただきますので、何とぞ年内納入にご協力頂きたく節にお願い申し上げます。

尚、既にご納付されました各位には心よりお礼申し上げます。

事務局長 藤木 昇

2012年度 関係団体一覧

北海道	0144-72-4060	藤島勝雄様方	大阪府	06-6975-2064	大阪府スキー連盟内
青森県	0172-48-3490	財団法人青森県スキー連盟内	兵庫県	078-802-0558	兵庫県スキー連盟内
岩手県	019-656-6655	財団法人岩手県スキー連盟内	奈良県	0743-67-0760	奈良県スキー連盟内
宮城県	022-375-9524	宮城県スキー連盟内	和歌山県	0736-73-3723	和歌山県スキー連盟内
秋田県	018-832-0563	秋田県スキー連盟内	鳥取県	0859-52-2290	鳥取県スキー連盟内
山形県	023-647-5020	山形県スキー連盟内	島根県	090-8998-1110	島根県スキー連盟内
福島県	0242-62-4504	福島県スキー連盟内	岡山県	086-801-9090	岡山県スキー連盟内
茨城県	029-221-7737	茨城県スキー連盟内	広島県	082-293-3230	広島県スキー連盟内
栃木県	0286-22-3571	栃木県スキー連盟内	山口県	083-927-9655	山口県スキー連盟内
群馬県	027-231-1966	群馬県スキー連盟内	徳島県	0883-53-0008	徳島県スキー連盟内
埼玉県	048-853-2710	埼玉県スキー連盟内	香川県	087-841-3818	香川県スキー連盟内
千葉県	047-751-2100	千葉県スキー連盟内	愛媛県	0898-24-0676	愛媛県スキー連盟内
東京都	03-3262-2491	財団法人東京都スキー連盟内	高知県	088-841-5261	高知県スキー連盟内
神奈川県	045-311-9807	財団法人神奈川県スキー連盟内	福岡県	092-262-1550	福岡県スキー連盟内
新潟県	0258-82-1680	財団法人新潟県スキー連盟内	佐賀県	090-5480-9320	佐賀県スキー連盟内
富山県	076-442-3110	富山県スキー連盟内	長崎県	0957-53-4266	長崎県スキー連盟内
石川県	0761-91-3543	石川県スキー連盟内	熊本県	096-324-2595	熊本県スキー連盟内
福井県	0779-66-3411	福井県スキー連盟内	大分県	0974-22-0110	大分県スキー連盟内
山梨県	090-7401-3322	NPO法人山梨県スキー連盟内	宮崎県	0985-23-6937	宮崎県スキー連盟内
長野県	026-264-5888	財団法人長野県スキー連盟内	鹿児島県	099-225-1309	休会中
岐阜県	0577-34-3133	岐阜県スキー連盟内	沖縄県	098-850-9273	沖縄県スキー連盟内
静岡県	054-385-5437	静岡県スキー連盟内			
愛知県	052-757-6277	愛知県スキー連盟内	(社)全日本学生スキー連盟	03-3384-7913	
三重県	0593-94-6981	三重県スキー連盟内	全国高体連スキー部	0278-56-2310	
滋賀県	077-527-8501	滋賀県スキー連盟内	(群馬県立尾瀬高等学校内)		
京都府	075-692-3487	京都府スキー連盟内	全日本スキー連盟	03-3481-2315	

個人会員募集

日本スキー指導者協会に団体が加入していない府県の方は、個人会員として当協会の会員になることができます。
 会員になられた方には、会報の送付や各種行事のご案内などを差し上げます。
 お申し込みは事務局におねがいします。
 年会費は1,000円となっています。
 現在、下記の府県の団体は加盟しておりませんので
 ご希望の方は、個人会員としてお申し込みください。

記

群馬県、新潟県、西日本ブロック(SAJ)のブロックに同じ)

《編集後記》

自然災害、原発災害、円高、景気低迷、政治不信と落ち込む一方の昨今ではあるがこのような時だからこそ、思い切った発想の転換が求められる。次世代につなげていくためにも、社会に貢献する魅力に溢れた団体へ・・・新役員のこれからの期待したい。 M
 ** 編集委員 ** 水島 秀夫 藤木 昇 高橋イキエ 水島三千夫



INSTRUCTOR

日本 ski 指導者協会会報 (第27号) (非売品) 平成23年10月1日発行
 編集人 編集委員会 発行人 坂本 祐之輔
 印刷所 水戸屋紙工株式会社 発行所 日本 ski 指導者協会中央事務局
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-15-5-419
 TEL & FAX 03-3374-3855 E-mail ikie@nifty.com URL http://sij.arts-k.com/